

# 県立高等学校における 通級による指導の手引き 事例・Q&A編 (改訂版)



令和3年4月  
長崎県教育委員会  
(初版 平成30年4月)

# 目 次

<b>事例編</b>	1
事例01 思い付いたことをすぐ発言したり、行動したりしてしまう生徒への指導・支援	2
事例02 課題やレポートを期限内に提出できない生徒への指導・支援	4
事例03 一方的に話してしまい、会話のやりとりが難しい生徒への指導・支援	6
事例04 ルールにこだわり、友達を強く非難してしまう生徒への指導・支援	8
事例05 単語や熟語を覚えることが苦手で、学習意欲が低くなった生徒への指導・支援	10
事例06 学習上の困難さに自分で気付くことが難しい生徒への指導・支援	12
事例07 失敗経験から、自分の言動に自信がもてない生徒への指導・支援	14
事例08 計画的に学習を進めることが難しい生徒への指導・支援	16
事例09 学習の定着が難しく、学習意欲が低下している生徒への指導・支援	18
事例10 場の雰囲気を感じたり、相手の表情を読み取ったりすることが難しい生徒への指導・支援	20
事例11 人間関係のストレスから、生活リズムが崩れたり体調不良になったりする生徒への指導・支援	22
事例12 自分から発言したり行動したりすることが難しい生徒への指導・支援	24
事例13 困った状況で、自分から援助を求めることが難しい生徒への指導・支援	26
<b>Q&amp;A編</b>	28
Q01 長崎県においては、高等学校に通級による指導をどのように導入するのですか。また、通級による指導を実施したい場合は、どのような手続きが必要ですか。	29
Q02 自校通級、他校通級、巡回指導の違いは何ですか。	29
Q03 発達障害以外の障害種への通級による指導を実施する計画はありますか。	29
Q04 中学校で通級による指導を受けていることが、通級による指導を実施している高等学校に入学できる要件となりますか。	29
Q05 高等学校教員が通級による指導を担当するために必要な専門性を身に付けるためには、どうすればよいですか。	30
Q06 通級による指導を受けさせることが望ましい生徒がいた場合、本人及び保護者にどのように伝えればよいですか。また、本人・保護者が受けたくない場合は、どのように対応すればよいですか。	30
Q07 通級による指導を受けると、授業（選択教科・科目）を欠課したことになりますか。また、その場合、欠課の補充はどのようになりますか。	30
Q08 通級による指導を効果的に実施するための校内支援体制のポイントは何ですか。	31
Q09 通級による指導を受けている生徒の指導目標や指導内容について、他の教師と共有する方法を教えてください。	31
Q10 通級による指導を受けることが、大学受験や就職試験に不利になることはありませんか。	31
Q11 高等学校で作成する個別の教育支援計画や個別の指導計画は、統一した様式で作成する必要がありますか。	31
Q12 通級による指導を行う上で参考となる情報（Webサイト等）を教えてください。	32
Q13 通級による指導を行う上で必要となる自立活動の個別の指導計画の作成は、どのように行えばよいですか。	32
<b>補足資料</b>	37



# 事例編

## 事例 01 思い付いたことをすぐ発言したり、行動したりしてしまう生徒への指導・支援

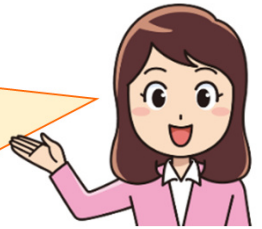
### 支援が必要な状況

- 授業中に関係のない話をしたり、席を立てて学習に必要なものを取りに行ったりする。
- 教師の注意や指導を受け入れることができず、反抗的な態度を示す。

### つまずきの要因

つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 「目に付いたらすぐ行動してしまう」「気付いたらすぐに発言してしまう」など、自分の行動や欲求をコントロールすることが難しい。
- 自分の言動が他者にどのような影響を与えるのか、客観的に考えたり振り返ったりすることが難しい。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・授業中の約束を掲示し、いつでも見て確認できるようにする。
- ・衝動的な行動を注意するだけでなく、注意した理由と、どのようにすればよいのかを具体的に伝える。



### 実践 1

授業のルールを視覚的に提示する。

#### 「授業の約束」

わたしたちは、みんなの学ぶ権利を守ります。

始まる1分前に着席する。

(願い)チャイムと同時に学べるように。

発表するときだけ立つ。

(願い)授業妨害にならないように、休み時間に道具の準備をする。

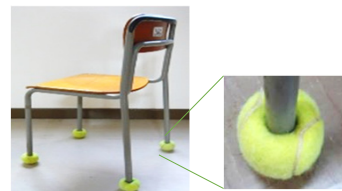
指名されたときだけ話す。

(願い)みんな集中して、学べるように。

- ルール設定の理由を生徒に説明し、理解を得る。
- 守れそうなルールから設定する。
- 生徒の目に付きやすい場所に掲示する。

### 実践 2

教室の環境を整える。



- 生徒の目に付きやすい教室前方の掲示物は、必要最低限にする。
- 椅子に、消音効果のあるテニスボールを付けるなどして、静かな環境づくりのための工夫をする。

### 実践 3

座席の位置を工夫する。

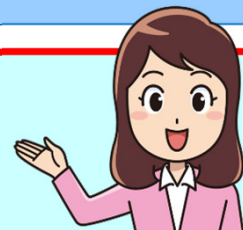


- どの座席が落ち着くのか生徒に意見を聞いて座席位置を決める。
- 落ち着いて学習に取り組んでいることを見逃さずに認める。
- 生徒が落ち着いて学習に取り組めない場合は、生徒に理由を聞くとともに、どのようにすればよいのかを具体的に伝える。

## 通級による指導における指導・支援

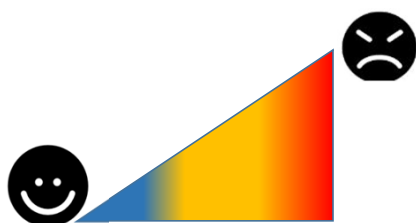
### 👉 指導・支援のポイント

- ・感情をコントロールする力を高めさせる。
- ・できるようになった実感をもたせる。

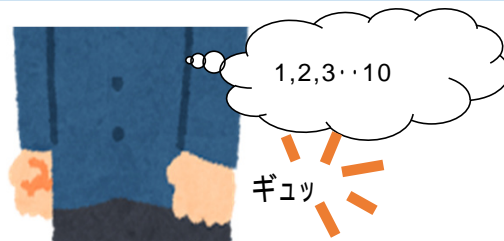


#### 実践 1

#### 感情をコントロールする力を高めるための指導



感情について学習する。



衝動的になりそうなときの  
対応方法を決める。



興奮しすぎないようなスキルを、  
身に付ける学習をする。

- 自分がどのような時に感情が高ぶるのかを理解させることから始める。
- 感情が高ぶる前に、どのようなことをすれば落ち着くのか、自己理解を深めさせる。

#### 実践 2

#### 自己評価シートを用いた指導

	自己評価	よくできたこと ほめられたこと	指導や注意を 受けたこと
1 校時		集中できていた	
2 校時			
3 校時			先生の説明中に 発言してしまった
⋮			
放課後			
対処方法			

#### 自己評価シート

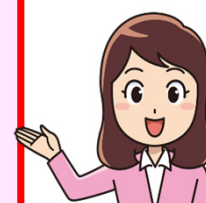
授業でよくできたこと、ほめられたこと  
 ・  
 ・  
 指導や注意を受けたこと  
 ・  
 同じ指導や注意を受けないための方法  
 ・  
 ・

- よくできたこと、ほめられたことから振り返らせる。
- 教師の評価と自己評価とのずれがある場合は、自己評価の理由等を丁寧に聞き取る。

## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・生徒の自己評価の内容等については、通級による指導と在籍学級との連携シート（P.38参照）等を活用しながら日々の情報交換を密に行う。
- ・効果が表れない指導・支援（指導しても同じことを繰り返す等）についても、情報を共有しておく。



## 事例 02 課題やレポートを期限内に提出できない生徒への指導・支援

### 支援が必要な状況

- 指示や説明を聞いて、その場では返事をするが、言われたことを実行できない。
- 課題の提出期限を守ることができず、たびたび指導や注意を受ける。

### つまずきの要因

つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 注意を持続させて指示や説明を聞き取り、覚えておくことが苦手である。
- 活動の優先順位を考えながら、見通しをもって活動に取り組むことが難しい。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・背面黑板等を活用し、いつまでに、何を提出すべきか確認できるようにする。
- ・生徒がメモをとる時間を確保するとともに、大切な連絡事項は教師がメモを渡したり、メモをとれているか確認したりする。



### 実践 1

提出物について背面黑板を活用する。

教科等	内容	締切
学級	京大模試代金(5/16)	5/16
教工演	復習課題	5/20(金)
卒業	15期模試(5/30)	6/6(木)

- 背面黑板の記入係を決め、帰りのホームルーム等で、提出すべき課題を確認する時間を設ける。
- 背面黑板の記入内容を確認するよう個別に促す。状況に応じて、促す頻度を減らしていく。

### 実践 2

スケジュール帳等を活用する。

- スケジュール帳に、提出すべき課題や提出期限を書き込ませる。
- スケジュール帳に書き込んだ内容を確認する習慣が定着するように、教師が声掛けをしたり、家庭と連携を図ったりする。



### 実践 3

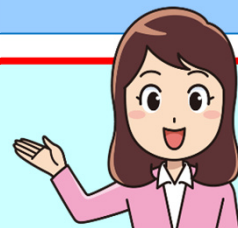
教師間で共通理解を図る。

- 生徒への対応（報告に来た時、提出が遅れた時など）について教師間で共通理解を図る。
- 提出が遅れた時は、教科担任等は学級担任に連絡する。
- 提出できないことを報告に来た時は、提出できない理由を把握する。

## 通級による指導における指導・支援

### 👉 指導・支援のポイント

- ・メモをとる習慣を身に付けさせる。
- ・自分に合った学習等の計画の立て方を理解させる。



#### 実践1

#### 自己理解を促す指導（できていること、苦手なこと等の理解）

- 普段の生活を振り返り、できていること、苦手なことや指導・注意をよく受けることを確認する。
- 苦手なことを改善するために、どうすればよいかを考える。

#### 実践2

#### メモのとり方を身に付けるための指導

正確にメモを取るための課題に取り組む。

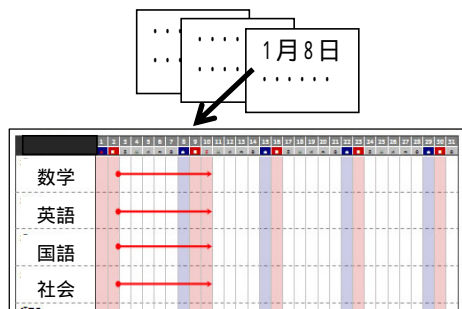
- ・聞いたことの要点をまとめて書く。
- ・「いつ、何を、誰に、いつまでに」など、ポイントに沿って聞き取る。



- メモを取る内容は、短い内容（説明や指示）から始め、段階的に長い内容（複雑な説明や指示）に挑戦させ、できるようになってきたことを生徒に実感させる。
- 話だけでなく、動作やジェスチャー、映像、図や絵等、視覚的な情報をあわせて示す。

#### 実践3

#### 計画を立て、実践できるようにするための指導



- 付箋紙にすべきことを書き出し、計画表に貼りながら無理のない計画になるよう工夫する。
- 教師と一緒に計画を立てることから始め、徐々に自分で立案したり、使いやすいものに改良したりする。

- 難しい課題、時間がかかりそうな課題がある時に、相談したり、必要な援助を求めたりする方法について、場面を想定して指導する。
- 失敗した時やうまくいかなかった時に、どのように報告すればよいのかについても、ロールプレイ等を通して、望ましい言動を身に付けさせる。

先生、の提出が、遅れそうなので、○日まで延ばしていただけませんか…



## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・通級による指導で作成した学習計画表を学級担任や教科担任と共有するとともに課題の量や提出期限等について配慮する。



### 事例 03

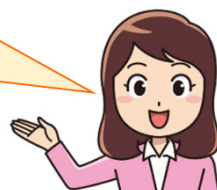
## 一方的に話してしまい、会話のやりとりが難しい生徒への指導・支援

#### 支援が必要な状況

- 会話の内容とは関係のない話題を話し始め、場の雰囲気を変えてしまうことがある。
- 友達と関わろうとするが、会話を続けることが難しい。

#### つまずきの要因

- つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。
- 他者の考えに興味をもったり、共感したりすることが難しい。
  - 会話を続けるための基本的なスキルが身に付いていない。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・ペアでの学習や友達同士で意見を聞き合う場面では、教師がやりとりをサポートする。
- ・不適切な言動を注意するだけでなく、不適切な理由と、どのようにすればよいのかを具体的に伝える。



#### 実践 1

ペアトーク等で、相手の意見を聞く機会を増やす。

私はこう思う。  
あなたは？



なるほど。  
そんな考え方もあるね。

- 指示を分かりやすく説明したり、モデルとなる生徒にさせてみたりする。
- ペアトークや話し合い活動の進め方、約束事などを説明したり、視覚的に提示したりする。

#### 実践 2

学級のルールを視覚的に提示する。

##### 【高校生活のルール】

挨拶・返事・言葉遣いを向上させよう。  
失敗してたり落ち込んだりした人がいたら励まそう。  
お礼や謝罪の言葉を言おう。  
人の話をよく聞こう。

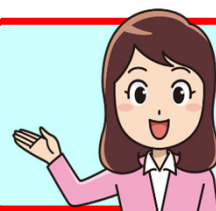
- 「高校生活のルール」などを学級に掲示する。
- ルールを守ることができていない時は、「～しない。」と注意するだけでなく、「〇〇する。」などと、どのようにするかを具体的に伝える。



## 通級による指導における指導・支援

### 👉 指導・支援のポイント

- ・他者の意見や考えに気付かせる。
- ・会話を続けるための基本的なスキルを身に付けさせる。



#### 実践 1

#### 相手の意見や考えを聞いて活動に取り組むための指導

養護教諭が「風邪予防ポスター」の作成を依頼

先生、ポスターを作りました。どうですか？



ありがとう！よくできているね。  
予防策に「加湿」「食生活」もあるよ。



なるほど。  
他に工夫できるところはありますか？



イラストがあると、みんなの目に付きやすくなると思うよ！



そうですね、自分でもできそうです。  
やってみます！



- 校内の教師から、生徒が取り組めるような活動を依頼してもらう。
- 役割のある活動に取り組ませることで、達成感を味わえるようにする。

#### 風邪を予防しよう

手洗い・うがいをしよう。  
マスクを着用しよう。  
教室の換気を心掛けよう！  
部屋を加湿しよう。  
「栄養補給」も忘れずに。



#### 実践 2

#### 相手の考えや気持ちを知るための指導

文化祭の出物の劇は  
どうか。



同じ



いいね！

文化祭の出物、  
アイドルの歌を合唱しよう。



違う



みんなが知っている歌がいいよ。

- 自分の経験を振り返らせ、自分と相手と同じ気持ちのこともあれば、異なることもあることに気付かせる。

- SNS等のやりとりを教材として、それぞれの気持ちを考えさせる。



#### 実践 3

#### 話題を共有したり、やり取りを続けたりするための指導

→ あなたが行ってみたい国は？

アメリカに行きたいです

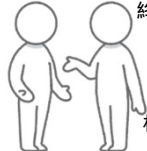
なぜですか？



#### 会話のポイント

視線  
声の大きさ  
言葉遣い  
あいづち

会話の始め方、  
終わり方  
話題  
話す量  
相手との距離



- 人によって興味や関心は異なること、自分ばかりが話さないようにするなど、会話を続けるためのポイントを示す。

- 日常生活に近い状況を設定し、学んだスキルを使って、繰り返し練習させる。

## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・通級による指導で、学んだことを共有し、身に付けたスキルを生かせる場面を意図的に設定することで、学習の成果を発揮させる。



## 事例 04 ルールにこだわり、友達を強く非難してしまう生徒への指導・支援

### 支援が必要な状況

- 他の生徒がきまりを守らないと厳しく指摘し、トラブルになることがある。
- 自分のペースで行動するため、周囲の友達と一緒に行動することが難しい。

### つまずきの要因

つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 「ルールに強くこだわる」「失敗が許せない」「時間や方法、手順等に強くこだわる」など、臨機応変に行動することが難しい。
- コミュニケーション力や想像力が十分でなく、相手の気持ちを読み取ることが難しい。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・適切な言動を見逃さず、できていることを認める言葉掛けをする。
- ・予定を伝える時には、変更の可能性もあわせて伝える。



### 実践 1

互いを認め合う学級の雰囲気づくりに努める。

- 認め合う場面を設定する。
- 生徒の気持ちの変化や努力を評価する。



・学級での活動や部活動等で役割を果たした時に、感謝や励ましの言葉掛けを大切に、自己有用感を感じさせる。



・これまでできなかったことに挑戦しようとしたり、少しずつ継続して取り組もうとしたりすることを認めて、評価する。

### 実践 2

学習規律等を明確にして、学級全体で共有する。

#### 高校の共通のルール（授業編）

- ・説明を最後まで聞いてから質問する。
- ・人の失敗や間違いは励ます。
- ・黙って挙手をして、指名されてから発表する。

	チェック内容	自己評価
1	指定された席に座りましたか	
2	カバンは指定の場所へ片付けましたか	
3	机上に教科書など必要なものを準備できましたか	

- 学習規律、学級の約束を徹底する。
- ・授業中の望ましい行動を掲示する。
- ・学習規律マニュアルを作成するなどして、全ての教師が統一した指導を行う。
- ・授業中に発言する時や、発表を聞く時の態度等のルールを明確にする。

## 通級による指導における指導・支援

### 👉 指導・支援のポイント

- ・自分と相手の考えの違いに気付かせる。
- ・自分の言動を振り返り、適切な対処法を身に付けさせる。



#### 実践 1

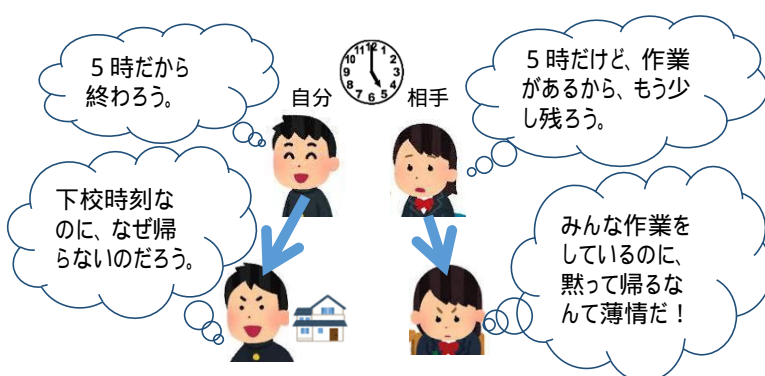
#### 自分の考えと相手の受け止め方の違いに気付くための指導

- 生徒自身が実際に直面した困難や課題について振り返らせ、自己理解を促す。

課題となった場面での自分と相手の言動を振り返る。

状 況	自分の言動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級で体育祭のための作業をしていた。</li> <li>・作業終了の時刻になったが、まだ作業は終わっていなかった。</li> <li>・みんなは、まだ作業を続けていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下校時刻になったので、黙って帰った。</li> </ul>
	相手の言動
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌な顔をしていた。</li> <li>・にらまれた。</li> </ul>

自分と相手の考えや気持ちの違いについて考える。

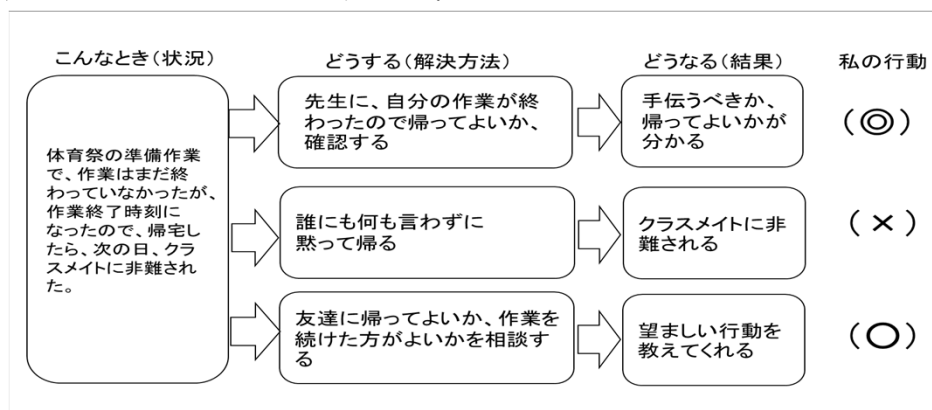


- 表情や態度などにも着目させ、相手の気持ちを推測させる。
- 自分と相手の受け止め方が違う場合だけでなく、気持ちが共有できた体験は、特に重視して振り返らせる。

#### 実践 2

#### 困った場面における解決方法を考え、実践できるようにするための指導

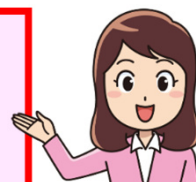
- 困った場面での対応方法をノートに整理し、そのノートを見ながら繰り返しハーサルをするなどしておくことで、実際の場面で、自信をもって行動できるようにする。



## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・通級による指導で作成したノートを学級担任や教科担任と共有し、在籍学級等でも教師とともに随時確認する。



## 事例 05 単語や熟語を覚えることが苦手で、学習意欲が低くなった生徒への指導・支援

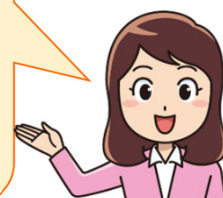
### 支援が必要な状況

- 単語や熟語を何度書いても、つづりや意味を覚えることが難しい。
- 机上での学習に対する意識が低く、指示された活動に取り組もうとしない。

### つまずきの要因

つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 聴覚による認知が弱いため、音の聞き分けが苦手で、文字やつづりと音が結び付きにくい。
- 自分が覚えやすい学習方法が分からない。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

・単語や熟語、重要語句、定義等を学習する際に、見る、聞く、言う、書くといった複数の活動を取り入れる。



### 実践 1

得意な方法で単語や熟語を覚えるための活動を行う。



- 様々な方法で、単語や熟語等を覚える学習を学級全体で行ったり、生徒がそれぞれ覚えやすいと思った方法を、グループに分かれて取り組んだりする。
- 誰にも得意なことや、不得意なことがあること、学習方法も多様に存在し、自分に合ったものを試してみることの意義を伝える。(次ページ「実践3」参照)

### 実践 2

得意な力を生かした様々な活動を授業に取り入れる。

【生徒がもつ様々な力を生かすことができる学習活動の例】(次ページ「実践2」参照)

- ・音楽やリズムを使った活動(英語の歌を聞く、歌う、チャンツなど)
- ・体を動かす活動(ジェスチャーゲーム、英語劇、ジェスチャー音読など)
- ・ペアワーク、グループワークなど
- ・絵や図、写真などを使った活動



- 学習に対する抵抗感を軽減するために、得意な力を発揮できる学習活動を取り入れる。
- 生徒の得意な力が多様であることを踏まえ、様々な活動を取り入れた授業を工夫する。

# 通級による指導における指導・支援

## 👉 指導・支援のポイント

- ・自分の得意なことや苦手なことに気付かせる。
- ・得意な力を生かした単語や熟語、重要語句等の覚え方を身に付けさせる。



### 実践 1

これまでの自分の学習方法が効果的なものかどうかに関心させるための指導

- 「語彙学習方略質問紙」(参考資料:P.40～41)を活用し、自分の英語の学習の方法を振り返らせる。
- 単語、熟語、重要語句等を覚えるのに、その覚え方が効果的かどうかを考えさせる。

### 実践 2

自分の得意なことに気付かせるための指導

- 「特性についての質問紙」(参考資料:P.42～43)を活用し、自分の得意な力を知る。
- 「語彙学習方略質問紙」の結果と比較し、自分の学習方法が効果的かどうかを考えさせる。

「特性についての質問紙」結果

それぞれの結果を比較する。

「語彙学習方略質問紙」結果

- 自分の取り組んでいる学習方法以外にも、様々な覚え方があることに気付かせる。
- 人には得意なことで苦手なことがある、自分が得意とするものは何なのかに関心させる。

### 実践 3

様々な覚え方を体験し、自分に合った方法を知るための指導

臭い

意味やイメージをジェスチャーをしながら、読み書きしたりする。

投票

熟語の意味と結び付く絵や写真などと組み合わせさせて覚える。

再び repair

接頭辞 語幹

接頭辞や接尾辞、派生語、全体と部分の関係など語の成り立ちに注目する。

誰かと一緒に読んだり、問題を出し合ったりする。

関連する語をマッピングして覚える。

クロスワードパズルに取り組む。

- 「特性についての質問紙」の結果で明らかになった得意なことを活用した方法を中心に、様々な覚え方を体験させる。
- 体験した中で、最も覚えやすいと思った方法を実際に活用させる。

## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・生徒が身に付けた単語や熟語等の覚え方を効果的に実践できているか、教師間で情報交換を行う。



## 事例 06 学習上の困難さに自分で気付くことが難しい生徒への指導・支援

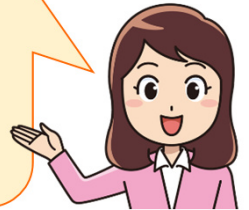
### 支援が必要な状況

- 文字の読み書きに困難があるためにノートをとることに時間がかかり、学習が遅れがちになる。
- 分からないことを教師に質問したり、援助を周囲に求めたりすることが難しい。

### つまずきの要因

つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 自分の良さや適性、困難なことなどの自己理解が進んでいない。
- 注視する力や空間認知の力が弱い。
- 語彙が少なく、思いを言葉で適切に伝えることが難しい。



## 在籍学級における指導・支援

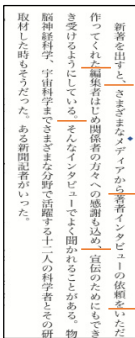
### 指導・支援のポイント

- ・通級による指導で学んでいる自分の困難さへの対応を実践し、効果を実感させる。
- ・指示は口頭で具体的なポイントを伝えるとともに、板書は写真やイラストなど視覚情報も提示する。

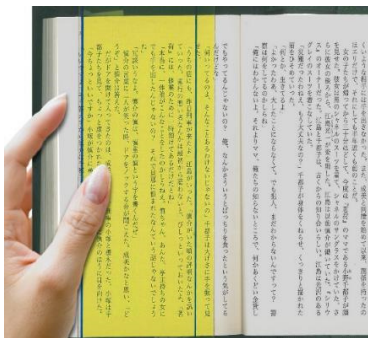


### 実践 1

困難さをカバーする方法を身に付けさせる。



区切り線を入れる。

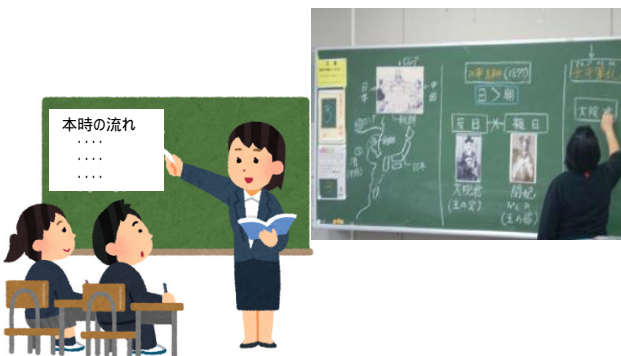


カラーフィルムを活用する。

- 通級による指導で学んだ解決策に取り組み、困難さをカバーできているかを本人とともに確認する。
- 効果的な方法については、様々な教科での活用を促す。  
(次ページ「実践2」参照)
- 誰にも得意・不得意があること、学習方法も多様に存在し、自分に合ったものを試してみることの意義を伝え、実際に取り組ませることで効果を実感できるようにする。

### 実践 2

板書を工夫する。

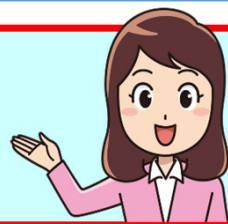


- 学習する教科書のページや学習活動の流れ等を明確に提示するなど、板書の基本的なルールを、学校全体（学年・学科全体）で統一する。
- 書く時間、聞く時間を明確に分けるとともに、本人に確認しながら、ノートをとる時間を十分に確保したり、文字の色や大きさなど板書を工夫したりする。
- 書字の困難を解決するために、ICT機器などで撮影する際には、事前に教師に伝え、許可を得るように促す。

## 通級による指導における指導・支援

### 👉 指導・支援のポイント

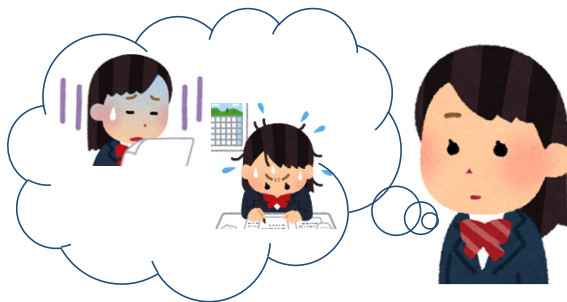
- ・自身の学習上の困難さを具体的に理解させる。
- ・適切な対応方法を身に付けさせる。



#### 実践 1 生徒自身が学習上の困難さに気付くための指導

- 生徒自身が実際に直面した困難や課題について振り返らせ、自己理解を促す。

あなたが間違いやすい漢字は何ですか。( )  
 次の文章を読んで、読みにくい箇所に線を引こう。  
 .....  
 授業中、どんなことに困っていますか。  
 a ノートをとる b 聞き取り c 学習内容  
 の授業で、アドバイスされることは何ですか？  
 ( )



#### 実践 2 解決策を考え、実践できるようにするための指導

- 自分でできる解決策を考え、実施、評価する。

	読むことについて	書くことについて
苦手なこと	文章を読む時に、途中で別の行を読んでしまう。	適切な大きさと字間を整えて書くことが難しい。
解決策・工夫	指で押さえながら読む。	「偏・つくりを書く場所」「一文字ずつ書く場所」に、線や点をつける。
自己評価+教師の助言	不十分 指がずれてしまうことがある。	バランスを整えて書けるようになってきた。
新たな解決策・工夫	行間に補助具をあてる。補助具は、カラーフィルムなど自分に適したものを選ぶ。	

#### 実践 3 自身で決めた解決方法を周囲の人に伝えることができるようにするための指導

- 困難さのみを伝えるのではなく、解決方法や解決のために協力してほしいことなどをあわせて伝えられるよう、パターンを決めて練習させる。
- 場面設定は、実際の場面を想定して行う。

字をバランスよく書くために、解答用紙に点を打ってもいいですか？



## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・連携シート（P.38参照）等を活用し、教師間で共通理解を図る。
- ・生徒が、自分で決めた解決方法で課題解決できた時は、しっかりと認めたり、良かった点を伝えたりして、自信をもたせる。



## 事例 07 失敗経験から、自分の言動に自信がもてない生徒への指導・支援

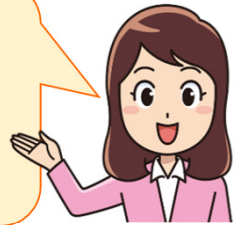
### 支援が必要な状況

- 自分のすることに自信がもてず、自分から他者に話し掛けることができない。
- 忘れ物が多い。また、課題の提出期限を守れない。

### つまずきの要因

つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 事物の捉え方や考え方の否定的な傾向が強い。
- こだわりが強く、気持ちの切り替えが苦手である。
- 注意を集中させることが苦手である。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・メモや課題チェック表を活用し、不注意によるミスを減らし、自分から取り組めることを増やす。
- ・体調や心理状態に配慮した言葉掛けをし、本人のストレスの状態等を確認するとともに、困ったことがあったら相談するよう伝える。



### 実践 1

#### 課題や提出物を確認する習慣を身に付けるための活動

OB	OB (B)	体育教室	← 学校行事を記入する
イ	数学	パワレルPOO~OO	時間割と、教科連続表 記入する
ロ	コミ	単語小テスト50~	
ハ	化学		
ニ	日本史		
ホ	現代文		
ヘ	体育	併修組、ジャージ	
プリント 保護者向け コ校 ← 印刷して配られたプリントメモ			
提出物 漢字プリント 数学連年課題 } この日がこの提出物 PT出席簿			

メモノート

- メモノートを作成し、ホームルームの時間に連絡事項を記入する時間を設定する。
- 記入例を示し、メモノートへの記入の方法を理解させる。
- 学年全体でメモをとることに取り組むなど、当該生徒の自尊感情に配慮する。

### 実践 2

#### 見通しをもって課題に取り組む習慣を身に付けるための活動

課題記入欄	本人記入欄	担任 確認 サイン	保護者 確認 サイン	提出 日 サイン
期日	課題の内容 日に決まってくるもの 例) 9/25までの勉強メモアップ	確認 サイン	確認 サイン	提出日 サイン

課題チェック表

- 課題チェック表を活用し、各授業における指示（課題の内容や提出期限、小テストの実施、持ち物等）を記入し、確認させる。
- 記入時に学級担任や教科担任がチェックし、サインする。
- 保護者も確認することで、本人の努力を家庭でも認められるようにする。

### 実践 3

#### 互いの良さを認め合う学級経営

私の四面鏡 ワークシート①		わたしから		わたしから	
1	2	3	4	5	6
1. 得意なところ	2. 得意な科目	3. 得意な活動	4. 得意な友達	5. 得意な先生	6. 得意な場所
7. 得意な時間	8. 得意な季節	9. 得意な食べ物	10. 得意な動物	11. 得意な色	12. 得意な言葉
13. 得意なゲーム	14. 得意な映画	15. 得意な音楽	16. 得意な本	17. 得意な漫画	18. 得意なゲーム
19. 得意なスポーツ	20. 得意なゲーム	21. 得意なゲーム	22. 得意なゲーム	23. 得意なゲーム	24. 得意なゲーム

電卓検定基本ルール①			
電卓入力	電卓表示	記入	
(コンマ)	しない	上	下
(小数点)	する	下	下

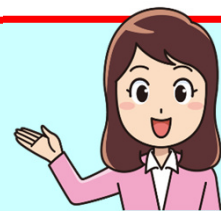
- 互いの良さを認め合う活動等を行い、安心して学校生活を送ることができるような学級経営を行う。
- 係活動、専門委員会の活動、行事等で、できる役割を担うように促す。
- 本人の苦手さを軽減するためのカードを作り、手元に置くことを認める。



## 通級による指導における指導・支援

### 👉 指導・支援のポイント

- ・気持ちを適切に表現できるようにする。
- ・適切な対応方法を身に付けさせる。



#### 実践1

#### 自分の気持ちを適切に表現するための指導



- 自分の気持ちを数値で表す。
- 数値の根拠となる出来事や今の気持ちについて話す。

テンションメーター

悲しい 暗い  
失恋



「雨」の  
イメージは？

- ネガティブな印象の言葉をポジティブな印象に変える学習に取り組む。

プラスで捉えてみよう！

雨が降ると、  
相合傘が  
できます。

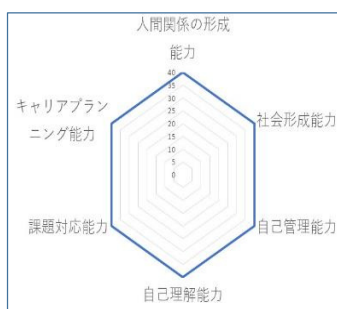


例えば、  
雨が降ると、  
作物が育つよ。

考え方の変換

#### 実践2

#### 自己理解を促し、自己肯定感を高めるための指導



生きる力チェック

- 自分の得意・不得意が分かるチェック表を付け、自己理解を深める。
- 自分の伸ばしたいところ、改善したいところを考える。
- 今後の学習面や生活面の目標を決める。

好きな理由は～だからです。  
私も～でありたいと思います。

意気込みトーク



- くじで引いたテーマについて話す。最後に必ず前向きな「意気込み」を付け加えて話すことで、物事を肯定的に捉えることを意識させる。

- 面接試験も想定し、結論、理由・具体例、意気込みの順で話す。

#### 実践3

#### 集中して、見たり、聞いたりする力を高めるための指導



- 視覚情報の共通点や相違点を把握する力を付ける。
- 市販のプリント集等を活用することもできる。

集中して見る。



- 口頭での指示をメモする学習を行う。

- 「いつ」「どこで」など要点を絞ってメモする力を付ける。

聞きながら書く。

## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・物事を肯定的に捉えた言動が見られた時は、しっかりと認める。また、否定的な言動が見られた時は、肯定的に捉えられるよう助言する。
- ・保護者と本人の良さ、認めたり褒めたりするポイントについて共通理解し、家庭と連携した指導・支援を行う。



## 事例 08 計画的に学習を進めることが難しい生徒への指導・支援

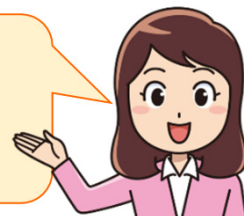
### 支援が必要な状況

- 計画的に学習を進めることが難しく、課題の提出期限が守れない。
- 文字の読み書きに対する苦手意識が強く、課題に取り組むことが難しい。

### つまずきの要因

つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 物事を継続的に計画する力（プランニングする力）が弱い。
- 文字の「形の違い」や「文字と音との関係」を理解することが難しい。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・各教科等の授業日や課題の提出期限などを視覚的に確認させ、学校生活や授業への見通しをもたせる。
- ・家庭や関係機関と連携し、本人が学習しやすい環境づくりや必要に応じた個別支援を行う。



### 実践 1

学校生活や学習への見通しをもたせる。

学習計画表

	月	火	水	木	金
1					
2					
昼休み					
5					
6					
備考					

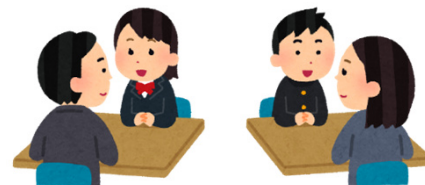
質問できる時間などの確認事項をメモする。

- 「学習計画表」を活用して、時間割や提出物の確認をしたり、学級担任や教科担任へ質問できる時間を把握したりする。
- 授業中の本人の様子や課題の提出状況から、意欲が認められる場面を具体的に評価する。

### 実践 2

本人が学習しやすい環境をつくる。

- 教室では、教師が意図的に働き掛け、できていることを認める。
- 学習教材専用に使しやすいカバンやファイルケースを用意させる。
- 職員室への入室の仕方や教師への質問の仕方を指導し、本人が、自ら教師に質問や相談に行くよう促す。



### 実践 3

家庭や関係機関と連携し、情報を共有する。



- 学校での学習状況等を説明し、家庭の協力を得る。
- 検査結果等を活用するため、専門家に助言を得る。
- 個別の教育支援計画、個別の指導計画で目標を共有する。

## 通級による指導における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・情報を分かりやすく整理し、見通しをもてるようにする。
- ・形が似ている文字の区別等により、苦手意識の要因を理解できるようにする。
- ・好きなこと、できること、得意なことを生かして、苦手意識を軽減する。



#### 実践1

カレンダー等を用い、課題提出の見通しをもたせるための指導

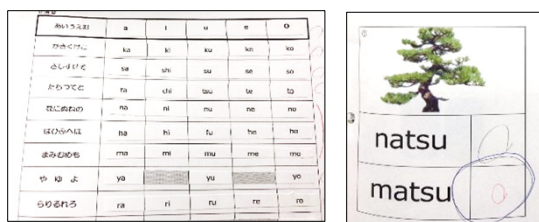
	月	火	水	木	金	土	日
予	2 3 質問事項を まとめる	2 4 放課後質問	2 5 英語レポート (31日まで)	2 6 数学課題	2 7 昼休み質問	2 8	2 9
定	3 0	3 1 英語レポート 提出	1	2 数学課題	3 質問	4	5

- カレンダーや学習計画表をもとに、課題の内容と提出期限を確認できるようにする。
- 学習の内容や教科担任に質問する日を決める。

- 取り組むことができたことや提出できた課題にマーカー等で印を付けることで、達成感を味わえるようにする。

#### 実践2

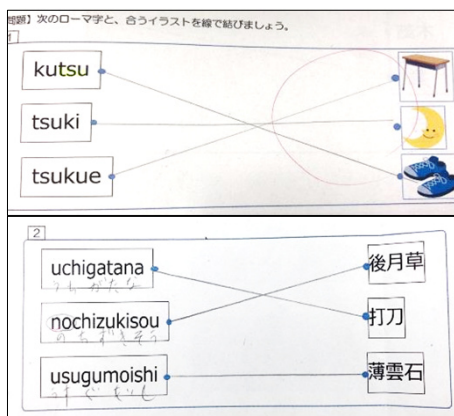
文字に対する苦手意識の要因を理解するための指導



- 漢字表やローマ字の五十音表、クイズ形式のプリント等を活用して、似ている文字の形の違いに気付かせる。
- 生徒に間違いやすい文字を把握させることで、苦手意識の要因について理解を促す。

#### 実践3

文字に対する苦手意識を軽減するための指導



- できることや好きなことを生かして、無理なく楽しく学習できるようにする。
- 選択肢を与え、文字を比較し、見当を付けやすくする。
- 少ない文字数の言葉から始め、徐々に文字数を増やしていく。
- 本人の興味・関心がある言葉を題材に取り上げる。
- タブレットPCを活用し、ゲーム感覚で学習に取り組ませる。



## 在籍学級との連携

### 連携のポイント

- ・通級による指導の時間に立てた計画について、在籍学級担任や教科担任と情報を共有し、計画通りに提出できているか確認を行う。
- ・関係する教師で、本人のできていることに着目し、認め、励ますことを大切にすること等について共通理解し、連携した指導・支援を行う。



## 事例 09 学習の定着が難しく、学習意欲が低下している生徒への指導・支援

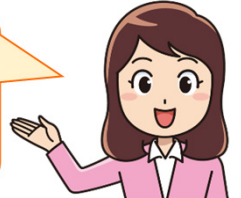
### 支援が必要な状況

- 一斉指示があっても、教師が促さないと活動に取り組もうとしないことが多い。
- 何度学習しても、言葉の意味や文字の形を覚えることが難しい。
- 一度覚えていたことも、時間が経つと忘れてしまい、学習内容の定着が難しい。

### つまづきの要因

つまづきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 視覚的な情報の記憶や空間認知の力が弱い。
- 聴覚的な情報の記憶や推理する力が弱い。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・必要に応じて個別に指示を出し、指示通りに取り組めているか確認する。
- ・家庭や関係機関と連携し、本人が学習しやすい課題を家庭学習で取り組ませる。
- ・自信をもって取り組む機会を増やす。



### 実践 1

指示の理解に応じて、個別に指示する。



- 座席を、本人の同意のもと、教師の目が届きやすい場所にする。
- 指示の内容を忘れないように、付箋やプリントなどにメモをとらせる。

### 実践 2

家庭学習チェック表を活用し、本人に記入を促す。

- 毎朝、担任に提出させ、確認する。全てできていない場合も、できているところを認め、励ます。
- 保護者と連携し、家庭でも確認や励ましの言葉掛けをしてもらうようにする。

家庭学習チェック表

日付	曜	教科	家庭学習の内容	保護者チェック

### 実践 3

定期的に覚えたことを活用する場面や、自信をもって発表する機会を設ける。

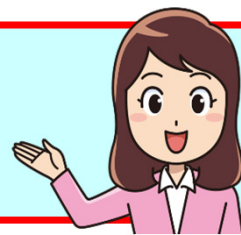


- 授業開始時に前時の内容を確認したり、定期的に既習事項を確認したりして、覚えたことを活用する場面を設定する。
- みんなの前で発表する機会を設定する。その際、教師は、本人が答えられそうな問題を準備したり、意図的な指名を行ったりするなどの配慮を行い、自分も答えることができたという喜びを味わうことができるようにする。

## 通級による指導における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・自分にあった学習方法を見つけ、できたという実感をもたせるとともに、具体物や図、絵、ICT機器の活用等、教材を工夫し、学習への苦手意識を軽減する。



#### 実践 1

苦手意識を軽減しつつ、多様な学習方法の中から自分に合ったものを見つけるための指導

以下の ~ のような学習に取り組むことで、苦手意識の軽減と自分に合った学習方法の発見を促す。

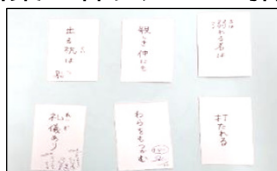
#### 短い言葉を聞き取る指導

- 本人が取り組みやすいワークシートを準備する。
- 短い文章を聞き取ったり、メモを取ったり、質問に答えたりする課題を準備する。

話を聞いて、あてはまる言葉を書きましょう。

いつ				
どこで				

#### 語彙を増やすための指導



- 興味・関心がある分野に関する言葉のカルタ形式の教材を準備する。
- 読みが難しい漢字には読み仮名を付ける。
- 繰り返し学習できるように、家庭学習教材としても活用を促す。

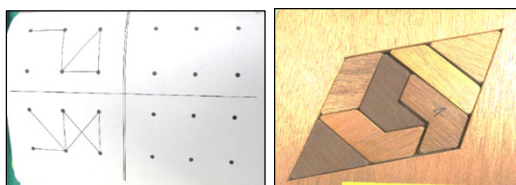
#### ゲームを通して、数の理解を深めるための指導



- トランプを使うことで、ゲーム感覚で数の概念をつかませる。

「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 平成28年度研究開発実践報告書」(長崎県立佐世保中央高等学校)から

#### 視覚的な情報を正確に捉える力を高めるための指導



- パズルや点つなぎ、ボールを使った簡単な運動、動きを模倣する体操などを行う。

## 在籍学級との連携

### 連携のポイント

- ・通級による指導で学習したことを生かして、生徒が各教科等で学んだことを身に付けることができたかどうか、学級担任、教科担任と情報を共有する。



## 事例 10 場の雰囲気を感じたり、相手の表情を読み取ったりすることが難しい生徒への指導・支援

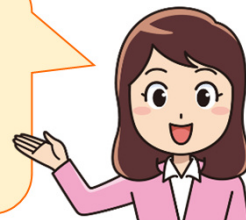
### 支援が必要な状況

- 文章の内容を絵を用いて説明しても、状況や登場人物の気持ちが理解できない。
- 日常生活において、どのように話したり行動したりするとよいか分からないことが多い。

### つまずきの要因

つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 言動とその結果の出来事との因果関係を理解することが難しい。
- 常識や「暗黙のルール」を理解することが難しい。
- 聴覚的な情報の記憶や推理する力が弱い。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・適切な言動が見られた時は、できていることを認め、具体的にほめる。
- ・分からない時は、尋ねるように繰り返し伝える。



### 実践 1

学級で役割を決め、主体的に行動する機会を増やす。



ありがとう

- プリントを配付する係に任命し、担任がプリントを持っていたら、プリントを受け取り、クラスメイトに配付をさせる。
- 自ら動けるようになったら、指示することもせず、本人の動きを待つ。
- 教師は、持っているプリントを手渡す時に「ありがとう」と言葉を掛ける。

### 実践 2

人の動きや表情を見て真似るゲームをする。 短時間で実施

- LHRやSHR等の5分間を使って、3～4人のグループで輪になって行う。
- 具体的な指示を聞き（右足を上げてください等）、それに従わせる。
- 慣れてきたら、速度を速めたり、発声しないで体の形や表情だけを見せたりして行わせる。

「中学校・高等学校 発達障害生徒への社会性指導」（ジアース教育新社）から

### 実践 3

国語の物語文等で、心情や場面を把握できるように、個別にプリントを配付したり、別の時間に個別に指導したりする。



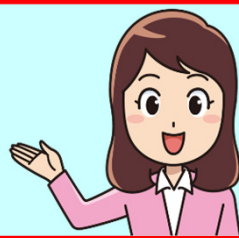
- 表情や場面を描いたプリントを配付して、場面の様子が分かるように説明し、登場人物の気持ちなどを考えさせる。
- 国語の教科担任と通級担当者が、放課後や長期休業中などに、個別に指導する。



## 通級による指導における指導・支援

### 👉 指導・支援のポイント

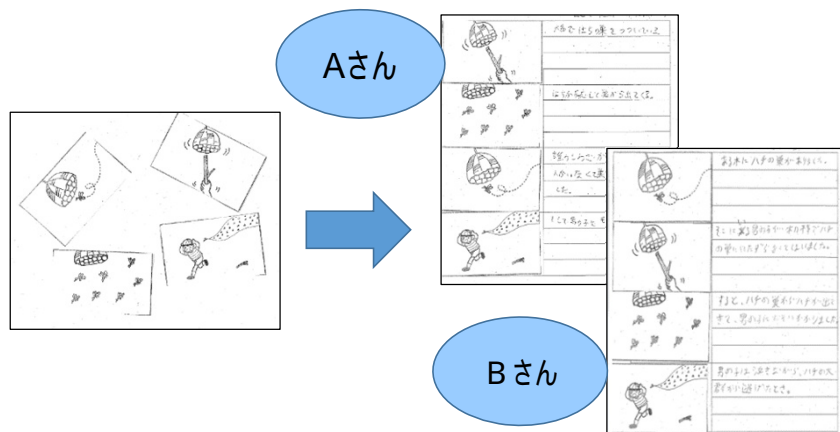
- ・言葉の意味、場面の状況、社会的ルールなどについて絵を活用しながら、丁寧に指導する。
- ・自分の気持ちや考えを話す機会を設定する。



#### 実践1

#### 自分の行動や考え方の特徴、他者との違いなどを知るための指導

- 自己理解できるようなシート、授業の振り返りシートを用いて、自分ができていること、苦手なことに気付かせる。
- 苦手なことを改善するためには、どうすれば良いかを考えさせる。



- ・4枚の絵を並び替えて、文章を作成する。
- ・友達が並べ替えたものと比べ、どちらの話がより良いかを考える。どんなところが良いかも考える。
- ・より良い話を真似て、もう一度並べ替える。

#### 実践2

#### 適切な言動を身に付けるための指導

- テーマを決めて話したり、教師にインタビューさせたりする。その際、話す時、聞く時の注意点や会話の続け方などを指導する。
- 実際の生活場面でよくある場面を設定し、話し掛けるタイミングや適切な言葉の掛け方などをロールプレイで練習させる。
- ロールプレイを行う時は、その場面を把握できるよう、絵に描くなどしておく。

インタビューした後に、  
アドバイスを受ける。



- ・相手の答えに対してリアクションを示すと雰囲気良くなりますよ。
- ・リアクションを示すには「この人だったらこんな風に言うのではないかな」と想像して聞いてみるといいですよ。

## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・通級による指導での指導内容を共有し、生徒が自ら考え、発言したり行動したりすることができるような場面を、意図的に在籍学級での活動に設定する。



## 事例 11 人間関係のストレスから、生活リズムが崩れたり体調不良になったりする生徒への指導・支援

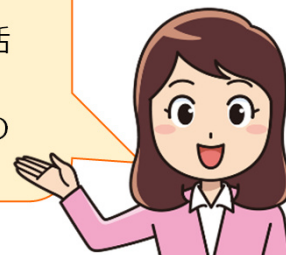
### 支援が必要な状況

- 特定の相手との人間関係でトラブルを抱え、気持ちの切り替えができずに授業を休むことがある。
- 不安が高まると、生活リズムが崩れたり、周囲の人とトラブルになったりする。

### つまずきの要因

つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 衝動的に行動することが多く、優先順位を考え、見通しをもって生活することが難しい。
- 物事をネガティブに捉える傾向があり、感情のコントロールや気持ちの切り替えが難しい。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・時間を決めて学級担任に相談できる機会を設定し、気持ちの切り替えを図る。
- ・予定や役割を意識させ、「今、何を優先すべきか」や「できることとできないこと」を明確に示し、見通しをもって行動できるようにする。



### 実践 1

相談ができる機会を設定する。



- 時間を決めて、自分の思いを話せるような機会を設定する。
- 本人の捉え方や気持ちを受け止めつつ、行動の切り替えを促す。
- 解決に向けた対応方法の提案を行う。

### 実践 2

予定や役割を意識させる。

- 行事予定等を確認させ、目標をもって生活したり、優先順位を考えたりできるようにする。
- 特定の人との関わりに固執することのないように、様々な人と関わられるような役割を任せる。

### 実践 3

多面的に情報を整理し、トラブルの状況や原因を視覚的に提示し、考えさせる。



- 対応すべきトラブルが起きた時は、本人をはじめ、相手やその周囲から情報を収集し、正確な状況を把握する。
- 集めた情報を図に書くなど視覚的に示しながら説明し、本人の言動が適切だったかや解決方法を考えさせる。





## 通級による指導における指導・支援

### 👉 指導・支援のポイント

- ・できていることや成長していることを積極的に取り上げ、物事を前向きに捉える経験を積ませる。
- ・ストレスへの対処法を身に付けさせる。
- ・自分の感情や考え方、行動の傾向に気付くことができるようにする。



#### 実践 1

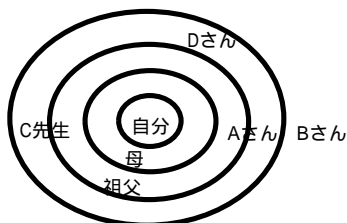
#### 1 週間を振り返り、良かったことや嬉しかったことを報告させるための指導

- スケジュール帳に、1週間に1つでも良いので、良かったことを記録させる。
- 状況を詳しく説明できるよう、聞き取った情報を視覚的に整理して提示し、一緒に確認する。
- 物事のポジティブな面に気付くことができていることをほめる。



#### 実践 2

#### ストレスに強くなるために必要な考え方についての指導

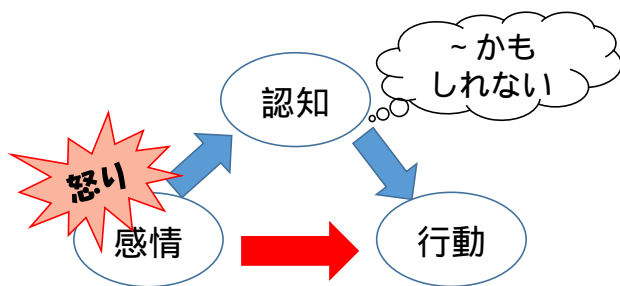


- 人によって、適度な距離があることや、身近な人に支えられていることに気付かせる。
- 決めつける言葉ではなく、「～かもしれない」という言葉で表現するよう指導する。
- 心や身体を休める活動を一緒に考える。
- 生活リズムや食生活の様子を確認し、工夫できていることをほめる。

#### 実践 3

#### 望ましい考え方や行動についての指導

- 人には様々な感情があり、どの感情にも意味があることを肯定的に受け止められるようにする。
- チェックリスト等で、自分の感情や考え方、行動の傾向を数値として整理し、考えやすくする。
- 感情的に行動するより、「認知（考え方）」を使って上手く行動を調整する方が、自分が望む他者との関係づくりに役立つことに気付かせる。



- 架空の出来事や登場人物の言動について取り上げ、望ましい行動について考えさせる。
- 身近な出来事（トラブル等）を振り返る機会をもち、本人の気持ちを受け止めながら、出来そうな工夫について考えさせる。
- 実際に解決できたことばかりでなく、「～と考えてみた。」「～しようとした。」といった経過を肯定的に評価する。

## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・ 周囲とのトラブルの状況等の情報を学級担任と共有し、トラブルに関する本人の捉え方について共通理解した上で指導する。
- ・ 望ましい言動や許容範囲について、要点や方向性を合わせ、役割分担をする。



## 事例 12 自分から発言したり行動したりすることが難しい生徒への指導・支援

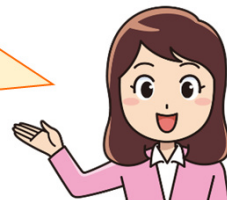
### 支援が必要な状況

- 自分から質問することが少なく、黙ったままになっていることが多い。言葉でのコミュニケーションに時間がかかる。自分の気持ちや要求を適切に周囲に伝えることが難しい。
- 相手の言動や周囲の状況を理解して、行動することが苦手である。

### つまずきの要因

つまずきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 思いや考えを正確に伝える語彙が少ない。
- 集団の中での自分の役割や優先順位を理解した言動が苦手である。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・ 質問することへの心理的な負担を軽減したり、答えやすい具体的な問い掛けにしたりする。
- ・ 「質問カード」を作成し、質問した授業の記録を取り、質問したことへの達成感を得る。
- ・ 具体的にどのような言動が望ましいかを示す。



### 実践 1

質問・発言しやすい雰囲気づくりと支援を行う。

- 質問することはないかどうか、個別に声掛けを行う。
- 授業担当教員や特別支援教育支援員による机間指導を行い、自発的な質問を促す。
- 自分の気持ちを言葉にして言い出せないことが多いので、個別に言葉掛けを行う。
- 具体的に問い掛けたり、「はい」、「いいえ」で答えられる質問をしたりする。

### 実践 2

達成感を得るために、質問カードを活用し、授業での質問を記録させる。

質問カード			
年	組	番	氏名
日	校時	科目	先生
/ ( )			
/ ( )			
/ ( )			
/ ( )			
/ ( )			
/ ( )			
/ ( )			

- 質問した授業の記録を取り、質問したことへの達成感を得させる。
- 質問状況について、学級担任と振り返りを行い、ほめられる経験をしたり、助言を受けたりすることで、対話の機会を増やし、自己肯定感を高める。

### 実践 3

どのような言動が望ましいかを考えさせたり、具体的に示したりする。

- 周りを見て行動することができていない時は、「他の生徒は何をしているかな？」と問い掛けることで、周囲に目を向けさせ、すべきことを考えられるようにする。（できている時は、大いに認める。）
- 通級による指導で学んだ、クッションとなる言葉やポイントの活用について、実際の場面での様子の振り返りを行う。（次ページ「実践 3」参照）

## 通級による指導における指導・支援

### 👉 指導・支援のポイント

- ・自己理解を促し、自分の気持ちの表現方法や困る場面での対処の仕方を身に付けさせる。
- ・指示の内容や相手の意図や気持ちを理解し、質問や会話をするなど、適切な行動を取る。



#### 実践 1

#### 自己理解を促すための指導

過去の自分を振り返る

自分を知る

現在の自分を  
見つめる

客観的に  
自分を知る

- 自分のルーツを発見する学習に取り組ませる。
- 性格や志向、関心を発見する学習に取り組ませる。
- 客観的な自分の評価を発見する学習に取り組ませる。

#### 実践 2

#### 自分の気持ちを表現するための指導

顔文字トーク



- それぞれの表情がどのような気持ちを表すかについて学ばせる。
- 自分の気持ちを表現する顔文字カードを選び、その理由を言わせる。
- 教師も同様に取り組み、生徒に聞かせることで、気持ちを表現するための語彙力を高める。

#### 実践 3

#### 相手に自分の要望や意思を伝えるために必要な言葉を身に付けるための指導

- 会話を始めたり続けたりするためのクッションとなる言葉やポイントについて学ばせる。
- クッションとなる言葉やポイントを活用して、相手と会話をするトークゲームを行う。

話し掛けるきっかけをつかむ学習

本を買いに書店に行ったけど、欲しい本が見つからない。  
店員さんは忙しそうで、なかなかこっちを見てくれない。  
店員さんに、なんて声を掛ければよいだらう...



会話が弾む答え方のポイントの学習

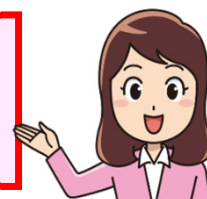
【ポイント！】  
質問の答えだけでなく、プラスアルファの情報を付け加えて答える。  
自分の話を聞いてもらったら、「あなたは？」と返す。



## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・学校生活において、自分から質問したり、行動したりした場面や本人の困った場面についての日々の情報交換を行う。



## 事例 13 困った状況で、自分から援助を求めることが難しい生徒への指導・支援

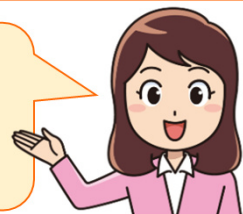
### 支援が必要な状況

- 不安な時や分からない時に、自分から伝えることができず黙ってしまう。
- 初めての活動や苦手な活動は取り組もうとせず、時間を要する。

### つまづきの要因

つまづきの主な要因として以下のような例が考えられます。

- 抽象的な表現を理解することが難しく、情報の処理が苦手である。
- 自分の状況を言葉で伝えることができないことに悩みを抱えている。



## 在籍学級における指導・支援

### 指導・支援のポイント

- ・個別に具体的な指示を出し、理解できているかどうか確認する。
- ・意思表示を行いやすくするために、選択肢を与える。



#### 実践 1

一斉指導（指示）の後、個別に指導（指示）内容を確認する。

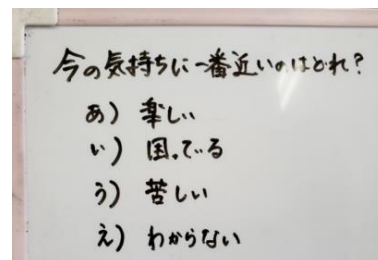


- 指導（指示）の内容を理解できたか、できなかったかを確認する。
- 理解できていないときは、メモやホワイトボードへ指示内容を端的に書き、視覚的に確認する。
- 指示通り活動できているか確認し、ほめたり追加で指示したりする。

#### 実践 2

選択肢を与えて、答えやすくする。

- 聴覚情報だけの場合は、「1. ~」「2. ~」のように端的に、選択肢を与える。
- 選択肢には「分からない」という項目を入れる。
- 回答に時間がかかる場合は、メモやホワイトボードへ選択肢を書き、選択した項目に○を付けさせる。



#### 実践 3

困った時に、どうしたら良いかを伝える。

- 「困った時は、この先生のところに行く。」などを生徒と考え、決めておく。
- 「こういう時にはこう伝える。」という定型文をメモにして渡しておく。
- 学級担任と教科担任など関係する教師間で、対応方法等について共通理解を図っておく。

#### 【どうしたらよいか、分からない時】

担当の先生のところに行く。（行くことができない時は、学級担任や通級担当の先生のところに行く。）

「 をどうしたらいいかわかりません。どうすればいいですか。」とたずねる。

先生から質問があったら「はい」「いいえ」「わかりません」のいずれかで答える。

先生の話が分かったら「分かりました。」、分からない時は「よく分からなかったので、もう一度（詳しく）教えてください。」と言う。

## 通級による指導における指導・支援

### 👉 指導・支援のポイント

- ・今の自分ができると思う方法で意思を表出させる。
- ・自信をもたせ、表示方法の幅を広げる。



#### 実践 1

### 自分ができる意思表示の方法を整理し、実践するための指導

- 意思表示ができると思う方法を選択し、チャレンジさせる。

発語とうなずき等による意思表示  
自ら書くことによる意思表示（スマホやメモの活用）  
コミュニケーションカードを使つての意思表示



- ・スマートフォンやメモなど、生徒が最も取り組みやすいツールと一緒に考える。いつでも、どこでも、卒業後もできるツールを選択できるようにする。
- ・教師とのやりとりの評価をしながら、本人へフィードバックをする。
- ・この方法なら大丈夫、この人なら大丈夫という安心できる状況を作り、自信をもたせ、表示方法を増やしていく。話すことのみをゴールにしない。



#### 実践 2

### 聞く力、話す力を高めるための指導

- 集中して聞くこと、メモを取ることを学ぶ聞き取り学習に取り組ませる。
  - ・メモのとり方を具体的に伝える。（単語、省略、記号の活用など）
- 話す学習に取り組ませる。
  - ・単語で答えることが可能である質問形式を繰り返す。



「今朝は何を食べた？」  
「これとこれ、どっちが好きだった？」  
「嬉しい気持ちだった？嫌な気持ちだった？」  
「どう思った？」  
「自分の感じたまを言っていよ」

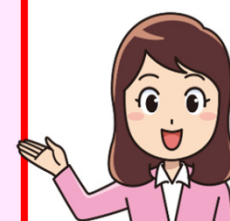
- 抽象的な表現の学習に取り組ませる。
  - どの言葉の意味が分からないかを拾い出す。
  - どういう意味で使われるのかを知る。



## 在籍学級との連携

### 👉 連携のポイント

- ・在籍学級においても、個別にやりとりする機会を設ける。その際、通級による指導での学習内容を関係する教師間で共有しておき、生徒が抵抗なく答えることができるようにする。
- ・あいまいな表現を避け、明確に指示や説明を行うとともに、個別での確認を行う。その際、本人の自尊感情を考えながら確認を行う。





# Q & A 編

#### Q 01

**長崎県においては、高等学校に通級による指導をどのように導入するのですか。また、通級による指導を実施したい場合は、どのような手続きが必要になりますか。**

- 平成30年度から開始した佐世保中央高等学校、鳴滝高等学校、五島南高等学校に加え、平成31年度（令和元年度）から島原翔南高等学校、中五島高等学校で、令和3年度から諫早東高等学校で通級による指導を開始しました。今後、これらの学校の取組の成果や課題を踏まえながら、県内高等学校への通級による指導の拡充を検討することとしています。
- 高等学校における通級による指導の導入は、校長の要望をもとに県教育委員会が判断します。校長の要望については、「通級指導教室設置計画書」に発達障害等の特別な配慮が必要な生徒の実態や通級指導教室の設置の目的等を記載して県教育委員会に提出します。県教育委員会は、提出された「通級指導教室設置計画書」及び当該校への意見を踏まえて、導入の可否や実施年度等を判断し、当該校に通知します。

#### Q 02

**自校通級、他校通級、巡回指導の違いは何ですか。**

- 「自校通級」とは、生徒が在籍する学校において通級による指導を受ける形態です。
- 「他校通級」とは、週に何単位時間か、他の高等学校に通級して定期的に指導を受ける形態です。校長が設置者の定めるところにより、他の高等学校で生徒が受けた授業（通級による指導）を、自校において受けた通級による指導の授業とみなすことができます。その授業を履修して修得した単位について、年間7単位を超えない範囲で卒業認定単位に含めることができます。その際、生徒が在籍する高等学校と通級による指導を実施する高等学校とが十分に協議して実施することが必要になります。
- 「巡回指導」とは、通級による指導の担当教員が、該当する生徒の学校に赴き又は複数の学校を巡回して指導を行う形態です。「他校通級」同様、通級による指導担当者で該当する生徒が在籍する学校とが十分に協議しながら実施することが必要になります。
- 長崎県においては、当分の間、「自校通級」を基本とし、県内のニーズを把握した上で、「巡回指導」の実施を検討することとしています。

#### Q 03

**発達障害以外の障害種への通級による指導を実施する計画はありますか。**

- 学校教育法施行規則第140条各号において、高等学校における通級による指導の対象は「言語障害者 自閉症者 情緒障害者 弱視者 難聴者 学習障害者 注意欠陥多動性障害者 その他障害がある者で、この条の規定により特別の教育課程による教育を行うことが適当なもの」とされており、 については「肢体不自由者、病弱者及び身体虚弱者」が該当するとされています。
- 県立高等学校における通級による指導基本方針において「当分の間、発達障害（LD・ADHD等）を対象とし、県内のニーズを把握した上で、他の障害種を対象とした実施を検討する」こととしています。

#### Q 04

**中学校で通級による指導を受けていることが、通級による指導を実施している高等学校に入学できる要件となりますか。**

- 中学校で通級による指導を受けていることが、通級による指導を実施している高等学校に入学できる要件とはなりません。
- 長崎県公立高等学校入学者選抜実施要領に示す、応募資格、志願の手続き等に従い、高等学校長は、中学校から提出された書類及び検査の結果を資料として総合的に選考し、高等学校の教育課程を履修できる見込みがあると認められるものを選抜することになります。
- 通級による指導の対象については、高等学校の合格者の中から、通級による指導を受けることが必要かどうかについて、高等学校の校内支援委員会等における検討を経て、高等学校長が決定します。

**Q 05**

**高等学校教員が通級による指導を担当するために必要な専門性を身に付けるためには、どうすればよいですか。**

- 通級による指導を担当する教員は、高等学校教諭免許状を有する者である必要があり、加えて、特別支援教育に関する知識を有し、障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする指導に専門性や経験を有する教員であることが必要です。
- 県立高等学校における通級による指導基本方針（平成28年10月）において、「県教育委員会は、実施校に対して必要な指導助言を行うとともに、『通級による指導』を担当する教員に対する研修を行い、計画的な人材育成に努める」としています。
- 県教育委員会が主催する研修（県教育センターが主催する研修）と、校内研修を充実させながら、担当する教員が専門性を身に付けることができるよう校内支援体制を整え、計画的・意図的な研修が必要になります。

**Q 06**

**通級による指導を受けさせることが望ましい生徒がいた場合、本人及び保護者にどのように伝えればよいですか。また、本人・保護者が受けたくない場合はどのように対応すればよいですか。**

- 通級による指導を実施する学校においては、学校説明会等の機会を利用して、本人や保護者に通級による指導の目的や内容について丁寧に説明することが必要です。
- 校内支援委員会等での検討を経て、通級による指導を受けさせることが望ましいと判断した生徒やその保護者に対しては、生徒や保護者と継続的に話し合う機会を十分にもち、可能な限りその意向を尊重しつつ、合意形成を図る必要があります。
- 合意形成に至らなかった場合は、学校は生徒や保護者と継続的に対話を続けていくことが必要です。その際、生徒本人が自己のもつ能力や可能性を十分に伸ばし、自立して社会参加するために必要な力を、通級による指導で高めることができるかどうかという視点を持ちながら対話を続けていきます。

**Q 07**

**通級による指導を受けると、授業（選択教科・科目）を欠課したことになりますか。また、その場合、欠課の補充はどのようになりますか。**

- 通級による指導は、高等学校の教育課程に加え、又はその一部に替えることができます。ただし、教育課程の一部に替える場合、必修教科や科目及び総合的な探求の時間、特別活動、専門学科においてすべての生徒に履修させる専門学科・科目、総合学科における「産業社会と人間」には、替えることができないとされています。
- 上記のことから、高等学校の選択教科・科目に替えて通級による指導を実施することはできますが、選択教科・科目の目標を達成する手段として、通級による指導に替えて実施することはできません。なぜなら、選択教科・科目の目標と通級による指導で行う自立活動の目標は異なるものであるからです。
- したがって、選択教科・科目の一部を通級の指導に替えて実施した場合、当該選択科目の単位認定ではなく、通級による指導の自立活動の単位として認定することになります。よって、このことから、当該選択教科・科目を欠課したことはありませんので、補充を行う必要もありません。
- なお、選択教科・科目の一部を替える場合には、生徒の進路等に応じた内容等の取扱いに留意が必要となります。



**Q 08****通級による指導を効果的に実施するための校内支援体制のポイントは何ですか。**

- 高等学校における通級による指導においては、通級による指導を履修し、修得した単位について年間7単位を超えない範囲で卒業認定単位の含めることができることになっていることから、対象生徒の決定や単位認定の判断等において、通級による指導担当者だけでなく、校長のリーダーシップの下、特別支援教育コーディネーター、学年主任、学級担任、教科担任の役割を明確にしたり、校務分掌や業務に明確に位置付けたりすること等がポイントになります。
- 特に、通級による指導を受ける生徒が、別の場所で指導を受けることに対して抵抗感をもたずに安心して取り組むことができるように、生徒一人一人が多様な教育的ニーズを有していることを生徒同士が理解し、個々の取組を認め合うことができるような学校風土を構築することが大切で、学校全体で通級による指導の充実に向けた取組を進めることが重要です。

**Q 09****通級による指導を受けている生徒の指導目標や指導内容について、他の教師と共有する方法を教えてください。**

- 通級による指導の担当教員が学級担任や各教科の担当教員に対して、個別の指導計画等を活用しながら情報提供や助言を行います。
- 特別支援教育コーディネーターが校内支援委員会やケース会議を開催し、個別の教育支援計画を活用しながら対象生徒の目標や必要な配慮・支援について関係する教師間で共有したり、支援の妥当性について評価したりします。

**Q 10****通級による指導を受けることが、大学受験や就職試験に不利になることはありませんか。**

- 高等学校において通級による指導を受けたことで、大学受験や就職試験において不利益な取扱いを受けることは、障害を理由とする不当な差別的取扱いになり、障害者差別解消法等により禁止されています。

**Q 11****高等学校で作成する個別の教育支援計画や個別の指導計画は、統一した様式で作成する必要がありますか。**

- 統一した様式で作成する必要はありません。高等学校においては、課程が全日制、定時制、通信制であることや普通科、専門学科、総合学科など多様であることから、生徒が抱える困難さも多様であることが予想されるため、各学校の実情に応じた様式で作成することが望ましいと考えられます。
- 島原市や諫早市、吉崎市などでは、小学校、中学校、高等学校での個別の教育支援計画（個別の指導計画）の様式を統一しているところもあります。
- 県教育センターにおいても個別の教育支援計画（個別の指導計画）の様式をWebサイトに掲載しておりますので参考にしてください。  
「個別の教育支援計画Q&A（通常の学級用）改訂版」（令和元年5月 県教育委員会）  
「個別の教育支援計画Q&A（通常の学級用）様式集」（令和元年6月 県教育委員会）

[https://www.edu-c.news.ed.jp/?page\\_id=21](https://www.edu-c.news.ed.jp/?page_id=21)

Q 1 2

通級による指導を行う上で参考となる情報（Webサイト等）を教えてください。

【Webサイト】

- 文部科学省「高等学校における通級による指導」 [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/1400148.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1400148.htm)
- 文部科学省「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド」 <https://www.mext.go.jp/tsukyu-guide/index.html>
- 国立特別支援教育総合研究所「支援教材ポータル」 <http://kyozai.nise.go.jp/>
- 発達障害教育推進センター（国立特別支援教育総合研究所内） <http://cpedd.nise.go.jp/>
- 発達障害情報・支援センター（国立障害者リハビリテーションセンター内） <http://www.rehab.go.jp/ddis/data/>

【刊行物】

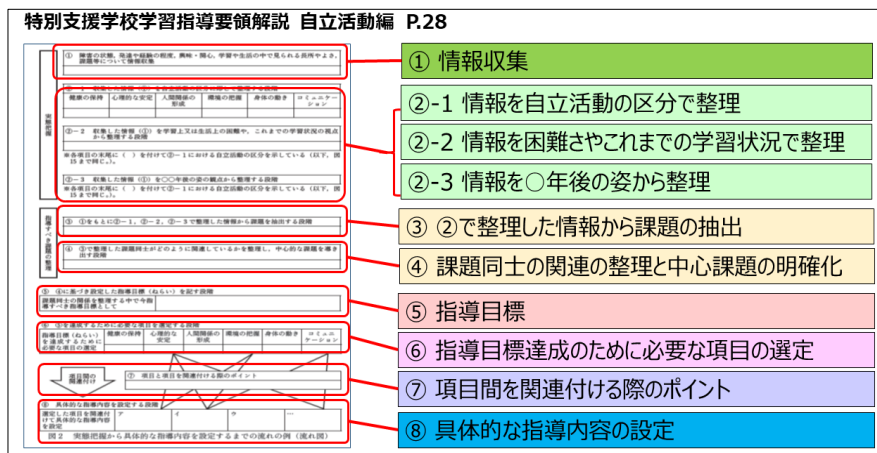
- 高等学校における「通級による指導」実践事例集（平成29年3月 文部科学省）  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/01/22/1400144\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/01/22/1400144_2.pdf)
- 高等学校教員のための「通級による指導」ガイドブック おさえておきたい8つの課題と課題解決のための10のポイント  
（平成30年3月 国立特別支援教育総合研究所）  
[http://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/research\\_results\\_publications/specialized\\_research](http://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/specialized_research)

この他、多くの自治体（都道府県・政令指定都市等）がガイドブック等を公開しています。「高校通級ガイド」等で検索してください。

Q 1 3

通級による指導を行う上で必要となる自立活動の個別の指導計画の作成は、どのように行えばよいですか。

- 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編には、自立活動の実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れを以下の図のように示しており、この流れに沿って自立活動の個別の指導計画を作成し、指導にあたることになります。



- 自立活動の指導についての基本的な事項や自立活動の個別の指導計画作成の手順等については、以下の資料を確認してください。  
「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（平成30年3月 文部科学省）  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950\\_5.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_5.pdf)

「県立高等学校における通級による指導の手引き 基礎編」22～34ページ（平成30年4月 県教育委員会）

[https://www.edu-c.news.ed.jp/web\\_contents/box/sienbox/H30/kiso.pdf](https://www.edu-c.news.ed.jp/web_contents/box/sienbox/H30/kiso.pdf)

- 次ページから、本資料2・3ページで紹介している「事例01」の「自立活動の個別の指導計画（試案）」を掲載します。各学校で「自立活動の個別の指導計画」を作成する際に参考としてください。

# 自立活動 個別の指導計画（実態・課題）【試案】

学年

● 年生

氏名

●● ●●

作成者

●● ●●

〈進路希望〉 学力を付けて看護学校に進学したい。

支援が  
必要な状況

「思い付いたことをすぐ発言したり、行動したりしてしまう。」  
 ・授業中に関係のない話をしたり、席を立てて学習に必要なものを取りに行ったりする。  
 ・教職員の注意や指導を受け入れることができず、反抗的な態度を示す。

## 自立活動の区分に即して整理

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
でき ない こと・ こと		<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員の注意や指導に対して感情が高ぶる。</li> <li>●相手に対する不適切な言動を改善しようとする意欲が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中に関係のない言動が多く、行動を調整することが苦手である。</li> <li>●自分の言動を振り返り、修正することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●刺激に反応しやすく、集中してやり遂げることが難しい。</li> <li>●聞いたことを覚えて行動することが苦手である。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●言葉での確に表現することが苦手である。</li> <li>●相手を傷つける言動が見られる。</li> </ul>
あ れ ば で き る こ と ・ 支 援 が と が		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎部活動など信頼関係のある仲間や指導者の中では、安定した気持ちで活動できる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎場面や状況を理解することができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な質問に答えることができる。</li> <li>○分からないことがあるときは、友達に手伝いを求めることができる。</li> </ul>

## 課題の抽出

※課題の抽出については、別紙1 参照

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員の注意や指導に対して感情が高ぶる。</li> <li>●相手に対する不適切な言動を改善しようとする意欲が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中に関係のない言動が多く、行動を調整することが苦手である。</li> <li>●自分の言動を振り返り、修正することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●刺激に反応しやすく、集中してやり遂げることが難しい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●相手を傷つける言動が見られる。</li> </ul>

※指導すべき課題相互の関連の検討については、別紙1 参照

## 課題同士の関連の整理と中心的な課題の明確化

### 中心的な課題

自分の言動を振り返り、修正することが苦手である。

### 中心的な課題とした理由と指導の方向性

- ・現在、支援が必要な状況として挙げられている「授業中に関係のない話をしたり、席を立てて学習に必要なものを取りに行ったりする。」「教職員の注意や指導に対して感情が高ぶる。」の要因としては、自分の言動を客観的に振り返ることが難しいためだと考えられる。
- ・本生徒が将来、社会生活を送る上で、自分の感情について理解し、行動や欲求をコントロールする力を身に付けることが必要であると考えられる。
- ・まずは、自分の言動を振り返る機会を設け、自分がどのようなときに感情が高ぶるのか、また、自分のできていることや苦手なこと等は何なのかについて、適切な自己理解を促すことが大切である。あわせて、自分の言動が他者に与える影響や、どのような言動をとればよいのかを教師と一緒に考え、適切な言動を実践できるようにする。
- ・集中が続かないことについては、周囲の刺激に反応しやすいという特性に配慮し、教室環境を整えたり、座席位置を工夫したりするなどして、必要のない刺激が入らないようにする。
- ・指導においては、WISC-IV発達検査の結果から、本生徒の強みを生かして視覚的な支援を多く取り入れるようにする。

実態把握

指導すべき課題の整理

# 自立活動 個別の指導計画（目標・評価）【試案】

学年

● 年生

氏名 ●● ●●

作成者

●● ●●

年間目標	自分の言動を振り返り、教師の助言を受け入れながら適切な言動ができる。
------	------------------------------------

※具体的な指導内容の設定については別紙2 参照

	前 期		後 期	
目 標	自分の行動を振り返りながら、自分ができることや難しいことなどを理解することができる。		教師の助言を受けて、状況に応じた適切な言動を考え、実践することができる。	
項 目	心 (2)	人 (2)	心 (3)	環 (4)
	心 (3)	環 (4)	人 (3)	コ (5)
指 導 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分がどのような時に感情が高ぶるのかを知る。</li> <li>振り返りシートを用いて、学習面や生活面における様々な活動への取組を自己評価する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちが落ち着く方法を考え、実践する。</li> <li>相手の立場や気持ちなどに応じた、適切な言動をする。</li> </ul>	
手 立 て ・ 配 慮 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情の高ぶりを視覚的に示して理解を促す。</li> <li>振り返りシートでは、まずは、ほめられたこと、できたことから振り返らせ、自分の良いところを目向けさせる。</li> <li>自己評価と教師の評価を比較し、評価のずれがある場合には、理由を考えさせる。</li> </ul> <p>○問題行動を注意するだけでなく、授業中の離席や私語がなかった時には、できていたことを本人に伝え、認める。</p> <p>○授業の約束を掲示し、いつでも見て確認できるようにする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちが落ち着く方法については、選択肢（イラスト、実際に演じる等）を示し、自分にあう方法を考えさせる。</li> <li>気持ちが落ち着く方法や、適切な言動については、ロールプレイで実際に練習させることで、実感を伴って理解できるようにする。</li> </ul> <p>○感情が高ぶりそうな時は、通級での学びを生かすことができるように、通級担当者と共通理解しておき、必要に応じて声を掛ける。</p> <p>○生徒に不適切な言動があった時には、教師が本人の手本となるような具体的な言動を示し、どうすれば良かったかを知らせるようにする。</p>	
	評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情についての学習では、自分の気持ちが高ぶりやすい場面を理解した。</li> <li>振り返りシートでは、注意を受けたことに対しては自分なりの言い分を述べ、納得できていないことが多かった。</li> </ul> <p>○多くの先生からできていたところをほめられ、教師の話を受け入れることができるようになった。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちが高ぶりそうになった時には、頭の中で10秒カウントする方法を実践するようになっている。</li> <li>通級担当者とは、適切な言葉でやりとりをすることができている。</li> </ul> <p>○気持ちを落ち着ける時の合図として、教師が腕時計を指すジェスチャーを示すことが有効だった。</p> <p>○教師の注意を素直に聞き入れることが増え、不適切な発言を、すぐに言い直すことができるようになった。</p>

年間評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の良いところやできていることを周囲に認められたことで、気持ちが落ち着いた。自他の評価のずれに目を向けることができるようになり、人によって様々な受け止め方があることを理解できてきた。教師が「こうすると良いのではないか」と助言したことを、受け入れることができるようになった。</li> <li>授業中の離席や関係のない私語は減っている。離席の際には教師に許可を求めることができるようになった。</li> </ul>

次年度への申し送り事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えて適切な言動ができるように、徐々に教師の助言を減らしていくようにする。</li> <li>適切な話し方だけでなく、相手を不快にさせない表情や態度などについても学習していく必要がある。</li> <li>不適切な言動であっても本人なりの言い分があるので、全てを否定するのではなく、まずは、本人の気持ちを汲み取ってから適切な言動について指導することが効果的である。</li> </ul>

	第 期	第 期	第 期	年間 (累計)
欠課時数				0
授業時数				0

校長	副校長/教頭	教務主任	担任	担当

# 別紙1 自立活動 個別の指導計画（課題関連図）【試案】

学年

● 年生

氏名

●● ●●

作成者

●● ●●

課題の抽出

## < 中心的な課題の明確化に必要な課題として抽出しないもの >

- 「卒業後に目指す姿」との関連が弱いもの
- 数年間指導して、習得に至らなかったもの
- 「（支援があれば）できること」で、今後も支援が受けられる可能性が高いもの
- 授業中の配慮等で改善できる見通しが立つもの

<進路希望>

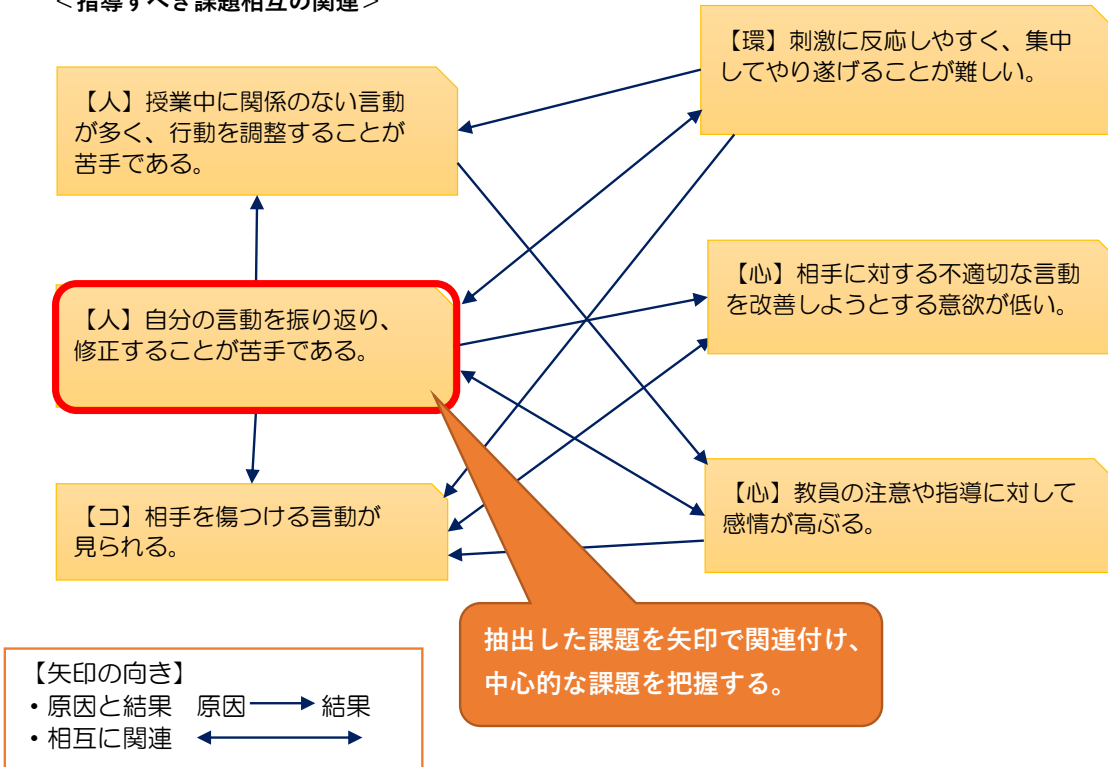
学力を付けて看護学校に進学したい。

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
できないこと・ 難しいこと・ 苦手なこと		●教員の注意や指導に対して感情が高ぶる。 ●相手に対する不適切な言動を改善しようとする意欲が低い。	●授業中に関係のない言動が多く、行動を調整することが苦手である。 ●自分の言動を振り返り、修正することが苦手である。	●刺激に反応しやすく、集中してやり遂げることが難しい。 ●聞いたことを覚えて行動することが苦手である。		●言葉で的確に表現することが苦手である。 ●相手を傷つける言動が見られる。
できること・ 支援が		◎部活動など信頼関係のある仲間や指導者の中では、安定した気持ちで活動できる。		◎場面や状況を理解することができる。		◎簡単な質問に答えることができる。 ◎分からないことがあるときは、友達に手伝いを求めることができる。

課題として捉えないものは、斜線で消去する。

課題同士の関連の整理と中心的な課題の明確化

## < 指導すべき課題相互の関連 >



## 別紙2 自立活動 個別の指導計画（指導内容の設定）【試案】

学年

● 年生

氏名


●● ●●

作成者

●● ●●

年 間 目 標	自分の言動を振り返り、教師の助言を受け入れながら適切な言動ができる。
------------------	------------------------------------

目 標 を 達 成 す る た め に 必 要 な 項 目 の 選 定	健康の保持	心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること  (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	人間関係の形成 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること  (3) 自己の理解と行動の調整に関すること	環境の把握 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること	身体の動き	コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること
		自分がどのようなときに感情が高ぶるのかを知る。	振り返りシートを用いて、学習面や生活面における様々な活動への取組を自己評価する。	気持ちが落ち着く方法を考え、実践する。	相手の立場や気持ちなどに応じた、適切な言動をする。	
選 定 し た 項 目 を 関 連 付 け て 具 体 的 な 指 導 内 容 を 設 定						



# 補足資料

令和 年 月 通級による指導と在籍学級との連携シート（教員記入用）【試案】

校長	副校長	教頭	特支Co	学年主任	教科担任	学級担任	通級担当

氏名		指導者	
----	--	-----	--

長期目標	
------	--

短期目標	【前期】
	【後期】

	●月●日	●月●日	●月●日	●月●日	●月●日
指導内容	①	①	①	①	①
	②	②	②	②	②
	③	③	③	③	③
	④	④	④	④	④

	●月●日	●月●日	●月●日	●月●日	●月●日
指導内容	①	①	①	①	①
	②	②	②	②	②
	③	③	③	③	③
	④	④	④	④	④

評 価（通級による指導担当記入）

生徒

---



---



---

授業

（内容・方法・教材教具等）◎効果的だったこと ●改善が必要なこと

---



---



---

今後の指導の充実に向けて 通級担当→学級担任・教科担任へ

---



---



---

今後の指導の充実に向けて 学級担任・教科担任→通級担当へ

---



---



---



---



---



令和 年 月 通級による指導 振り返りシート（生徒記入用）【試案】

●月●日 学習内容		振り返り	
①		今日の授業は	<input type="checkbox"/> よく理解できた、とても参考になった、とても集中できた
	②		<input type="checkbox"/> 理解できた、参考になった、集中できた
			<input type="checkbox"/> あまり理解できなかった、あまり参考にならなかった、あまり集中できなかった
	③		<input type="checkbox"/> 理解できなかった、参考にならなかった、集中できなかった
④ 振り返り		コメント	
●月●日 学習内容		振り返り	
①		今日の授業は	<input type="checkbox"/> よく理解できた、とても参考になった、とても集中できた
	②		<input type="checkbox"/> 理解できた、参考になった、集中できた
			<input type="checkbox"/> あまり理解できなかった、あまり参考にならなかった、あまり集中できなかった
	③		<input type="checkbox"/> 理解できなかった、参考にならなかった、集中できなかった
④ 振り返り		コメント	
●月●日 学習内容		振り返り	
①		今日の授業は	<input type="checkbox"/> よく理解できた、とても参考になった、とても集中できた
	②		<input type="checkbox"/> 理解できた、参考になった、集中できた
			<input type="checkbox"/> あまり理解できなかった、あまり参考にならなかった、あまり集中できなかった
	③		<input type="checkbox"/> 理解できなかった、参考にならなかった、集中できなかった
④ 振り返り		コメント	
●月●日 学習内容		振り返り	
①		今日の授業は	<input type="checkbox"/> よく理解できた、とても参考になった、とても集中できた
	②		<input type="checkbox"/> 理解できた、参考になった、集中できた
			<input type="checkbox"/> あまり理解できなかった、あまり参考にならなかった、あまり集中できなかった
	③		<input type="checkbox"/> 理解できなかった、参考にならなかった、集中できなかった
④ 振り返り		コメント	

**【参考資料：「語彙学習方略質問紙」】** 得意な英単語の学習方法を知るための参考になります

< 振り返ろう！自分の英単語の覚え方 >

あなたが普段英単語を覚える際にしていることについて、下の1～32の質問文を読んで、あてはまる度合い(1～4のいずれか1つ)に を付けてください。解答欄の数字の意味は以下の通りです。

【1：全くしない 2：あまりしない 3：時々する 4：する】

**A**

1	意味と単語を何度も書いて覚える	1・2・3・4
2	単語を語呂合わせで覚える	1・2・3・4
3	覚えただけの単語を会話や英作文などで使おうとする	1・2・3・4
4	英文の中で単語を覚える	1・2・3・4

A 合計

**B**

5	文法と組み合わせて覚える	1・2・3・4
6	1つのキーワードから関連する語彙を広げるマッピングをする	1・2・3・4
7	辞書を引いて単語を覚える	1・2・3・4
8	クロスワードパズルをしながら覚える	1・2・3・4

B 合計

**C**

9	単語を覚えるために、その単語のイメージ(絵・写真)を作り出す	1・2・3・4
10	単語をじっと見て覚える	1・2・3・4
11	単語カードを作って、表に英単語、裏に日本語で意味を書いて覚える	1・2・3・4
12	チェックペンとシートを使って、意味と単語を繰り返し覚える	1・2・3・4

C 合計

**D**

13	単語が表す意味を実際動作で表現してみる	1・2・3・4
14	空書きしてつづりを覚える	1・2・3・4
15	歩きながら単語を繰り返し言って覚える	1・2・3・4
16	単語のアクセントを体で表しながら覚える	1・2・3・4

D 合計

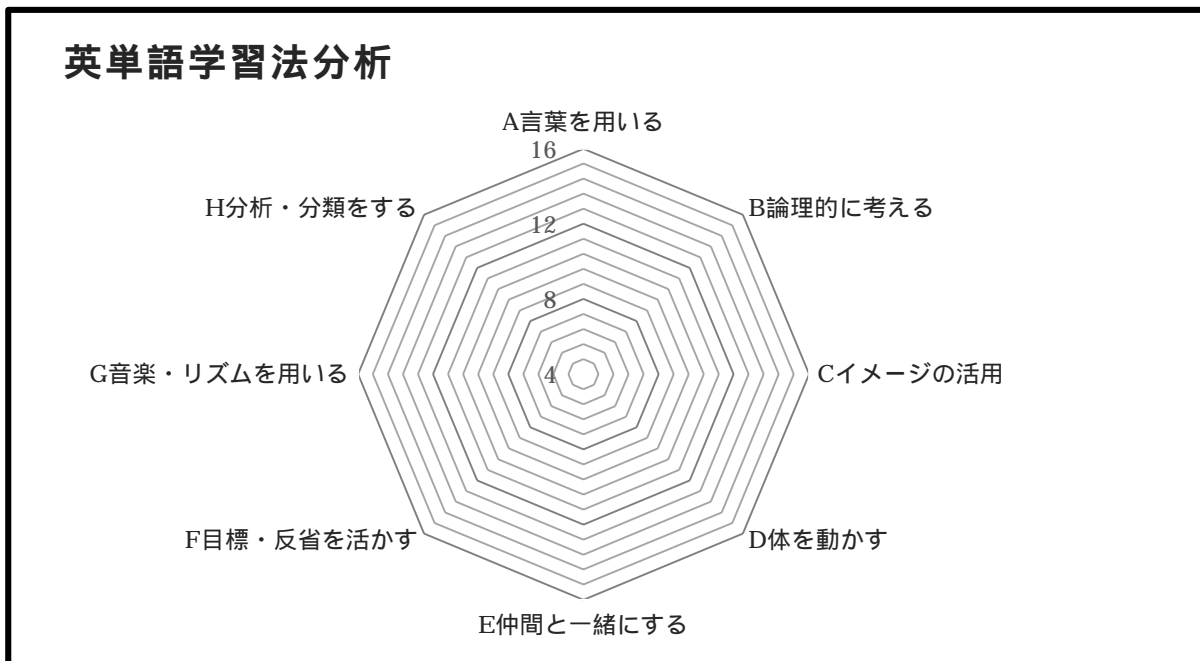
**E**

17	単語クイズを作って友達と問題を出し合って覚える	1・2・3・4
18	ペアやグループで単語カードを使ってゲームしながら覚える	1・2・3・4
19	友達に教えながら、または、教えてもらいながら覚える	1・2・3・4
20	ペアワークでコミュニケーション活動をしながら覚える	1・2・3・4

E 合計

<b>F</b>		
21	自分で覚えたかどうか確認チェック（テスト）をする	1・2・3・4
22	覚える前に目標を設定してその目標に向けて覚える	1・2・3・4
23	自分が覚えた単語を定期的に計画的に復習する	1・2・3・4
24	テストで間違ったり、問題演習で出てきた時に分からなかった単語は、印をつけ繰り返し復習する	1・2・3・4
		<b>F合計</b> _____
<b>G</b>		
25	単語を声に出して覚える	1・2・3・4
26	CDで単語の意味と発音を何度も聞いて覚える	1・2・3・4
27	英語の歌を聴きながらその歌に出てくる単語を覚える	1・2・3・4
28	何かリズムに合わせて単語を声に出して覚える	1・2・3・4
		<b>G合計</b> _____
<b>H</b>		
29	互いに関連する意味の単語をまとめて覚える	1・2・3・4
30	覚えようとする単語を接頭辞・接尾辞・語幹に分析して覚える	1・2・3・4
31	単語をいくつかの部分に分けてスペリングを覚える	1・2・3・4
32	同意語、類義語、反意語をピックアップしてまとめて覚える	1・2・3・4
		<b>H合計</b> _____

全ての質問に答えたら、A~Hでそれぞれ合計点数を出して、下のグラフに記入してください。



A~Hの解説：グラフ上に示したA~Hの項目は、それぞれ英単語を覚える際にどういう傾向があるかを示しています。

【参考資料:「特性についての質問紙」】 自分の得意なことを分析する際に参考になります。

<得意なことチェックリスト>

下の1～32の質問項目について、あてはまる度合い(1～4のいずれか1つ)に を付けてください。解答欄の数字の意味は以下の通りです。

【1:思わない 2:あまり思わない 3:やや思う 4:思う】

**A**

- |   |               |         |
|---|---------------|---------|
| 1 | よく本を読む        | 1・2・3・4 |
| 2 | よくメモを取る       | 1・2・3・4 |
| 3 | 文章を書くことが得意だ   | 1・2・3・4 |
| 4 | たくさんの言葉を知っている | 1・2・3・4 |

A 合計

**B**

- |   |                               |         |
|---|-------------------------------|---------|
| 5 | 暗算が得意だ                        | 1・2・3・4 |
| 6 | 将棋やオセロなどの(いずれか1つでもよい)のゲームが得意だ | 1・2・3・4 |
| 7 | クロスワードパズルをすることが好きだ            | 1・2・3・4 |
| 8 | 数学の問題を解くことが好きだ                | 1・2・3・4 |

B 合計

**C**

- |    |                  |         |
|----|------------------|---------|
| 9  | 部屋の飾り付けをすることが好きだ | 1・2・3・4 |
| 10 | 絵を描くことが得意だ       | 1・2・3・4 |
| 11 | 絵を見ることが好きだ       | 1・2・3・4 |
| 12 | イラスト入りの本が好きだ     | 1・2・3・4 |

C 合計

**D**

- |    |                 |         |
|----|-----------------|---------|
| 13 | 体を動かすことが好きだ     | 1・2・3・4 |
| 14 | スポーツが得意だ        | 1・2・3・4 |
| 15 | 手を使った作業が好きだ     | 1・2・3・4 |
| 16 | 実際に体験して学ぶ方が頭に入る | 1・2・3・4 |

D 合計

**E**

- |    |                   |         |
|----|-------------------|---------|
| 17 | 友達と話すことは楽しい       | 1・2・3・4 |
| 18 | みんなと一緒に勉強することが好きだ | 1・2・3・4 |
| 19 | 友達が多い             | 1・2・3・4 |
| 20 | 友達から相談されることが好きだ   | 1・2・3・4 |

E 合計

**F**

2 1	人に頼らない、または、意志が強い(いずれか1つでもよい)	1・2・3・4
2 2	自分の得意なことや苦手なことを知っている	1・2・3・4
2 3	目標を決めて達成する	1・2・3・4
2 4	失敗から学ぶことができる	1・2・3・4

**F 合計****G**

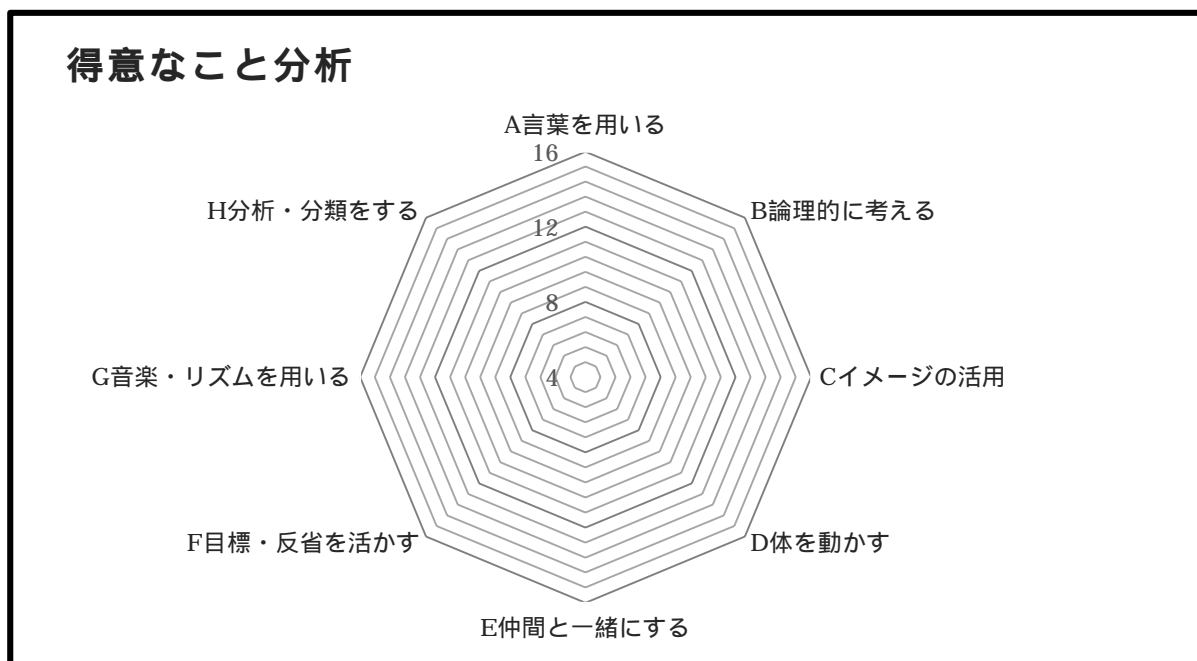
2 5	いろいろな歌のメロディを知っている	1・2・3・4
2 6	歌を歌うのが得意だ	1・2・3・4
2 7	楽器の演奏をする、または歌を歌うのが好きだ(いずれか1つでもよい)	1・2・3・4
2 8	リズム感がいい	1・2・3・4

**G 合計****H**

2 9	動物か昆虫か植物か電車の種類についてすごく知識がある	1・2・3・4
3 0	図鑑を見るのが好きだ	1・2・3・4
3 1	ハイキングをする、または、自然の中にいるのが好きだ	1・2・3・4
3 2	何か「こだわり」のものがあ、り、収集したりそれに関する情報を集めたりすることが好きだ	1・2・3・4

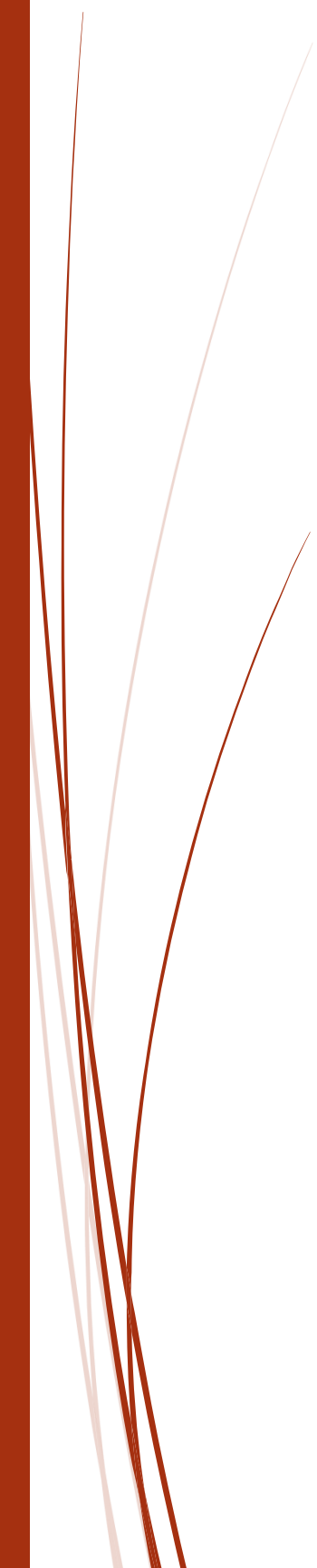

**H 合計**

全ての質問に答えたら、A~Hでそれぞれ合計点数を出して、下のグラフに記入してください。



A~Hの解説：グラフ上に示したA~Hの項目は、あなたがどういう特性をもっているかを示しています。点数の高いほど「得意なこと」の傾向があることを示しています。

☆この「得意なこと分析」と以前行った「英単語学習法」分析を見比べてみよう。  
自分に合う英単語学習法のヒントになります。



## 県立高等学校における通級による指導の手引き 事例・Q & A 編（改訂版）

発行日 令和3年4月  
編集・発行 長崎県教育庁特別支援教育課  
（電話）095-894-3403  
長崎県教育センター特別支援教育研修班  
（電話）0957-53-1130